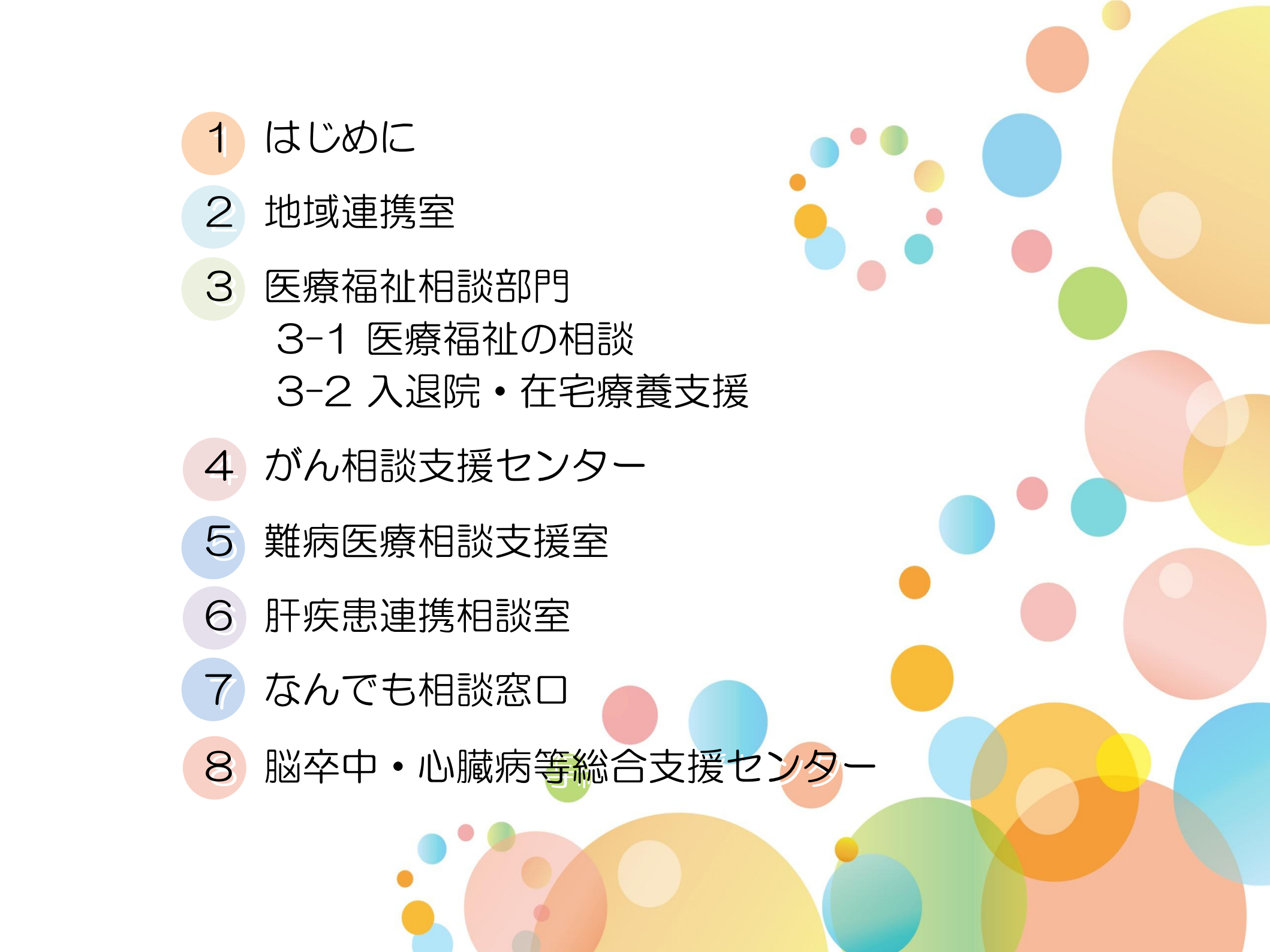


ANNUAL REPORT2025

浜松医科大学医学部附属病院
医療福祉支援センター





1 はじめに

2 地域連携室

3 医療福祉相談部門

3-1 医療福祉の相談

3-2 入退院・在宅療養支援

4 がん相談支援センター

5 難病医療相談支援室

6 肝疾患連携相談室

7 なんでも相談窓口

8 脳卒中・心臓病等総合支援センター

1 はじめに



浜松医科大学医学部附属病院
医療福祉支援センター長
安田日出夫

2024年度より入退院支援加算1算定する体制となり、2025年度は入退院支援のシステムがより定着した年であったと思います。メディカルサポートエリアで褥瘡評価を行い、入院時支援加算1を算定するようにもなりました。

救急部の朝のカンファに参加するようにもなりました。下り搬送の対象が2025年6月より整形外科疾患に加えて内科疾患も行うようになり、2025年度は浜松市内で最も多く利用する病院の一つになりました。

2025年10月に脳卒中・心臓病等総合支援センターが開設され、この事業に大きく関わる医療福祉支援センターは県庁さらには静岡県内の医療機関とのコミュニケーションが増えたように感じました。それに関連した市民公開講座を2026年3月29日に静岡で開催しましたが、自分たちで開催する大変さを実感しました。準備に多大な尽力頂いたスタッフの皆様、特に3月いっぱい退職される健一さんがこの日も頑張ってくれている姿に頭が下がる思いをしました。

また、新卒の社会福祉士2名が入職し、社会福祉士での指導体制が強化されました。院内で開催されたバレーボール大会にも参加し、職場に新たな風が吹いているように感じました。(コテンパンにやられたので無理は禁物です。)

2025年度も大変な日々の連続でしたが、センターの一人一人が自分のやるべきことに取り組んだ成果が年報の一部となって表れているように私には感じます。

2 地域連携室

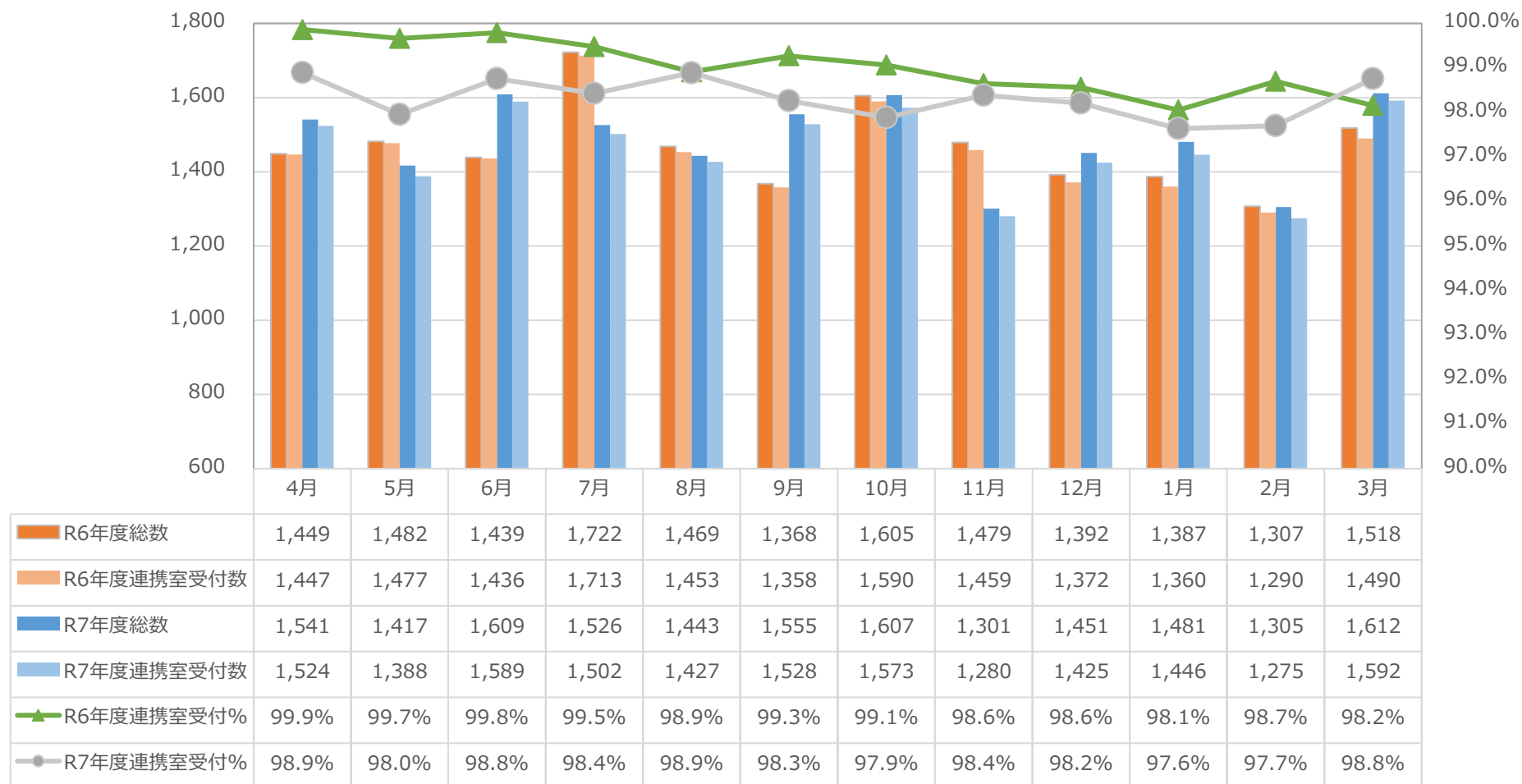


2

地域連携室

1 初診紹介患者数と地域連携室での受付患者数

令和7年度の初診紹介患者数は年間総数17,848件で、令和6年度の17,617件から231件増加した。紹介患者のうち地域連携室での事前受付患者は年間総数17,549件と令和6年度の17,445件から104件増加した。地域連携室での事前受付比率は年度平均98.3%となり、令和6年度の99.0%から0.7%減少した。



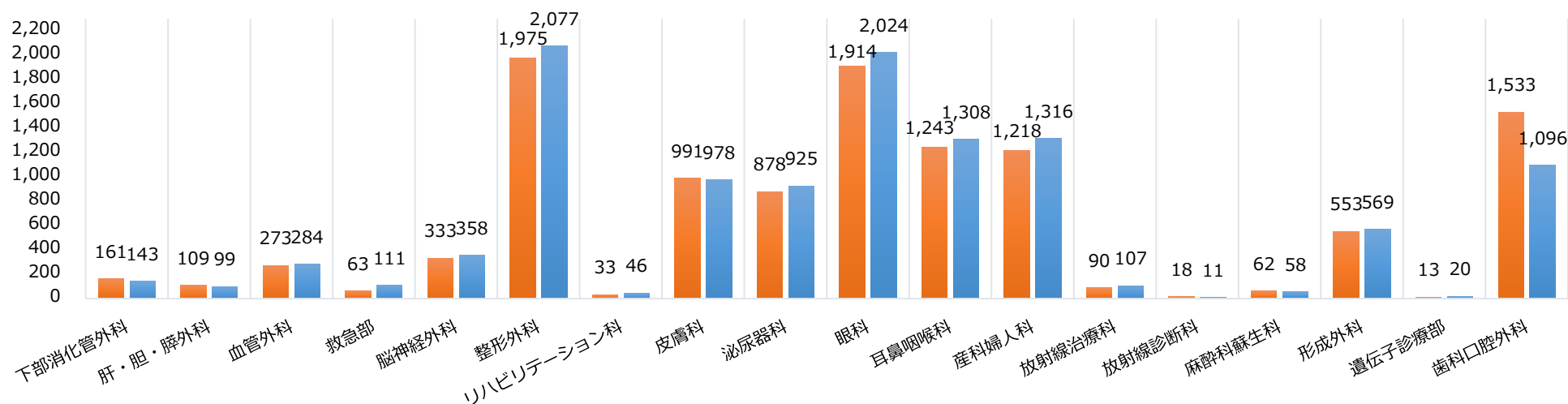
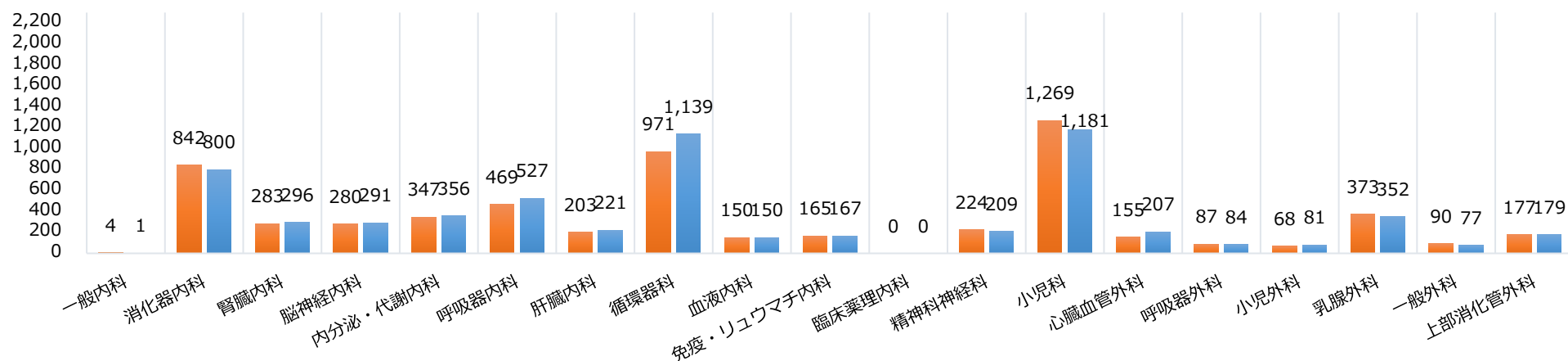
2

地域連携室

2 診療科別紹介患者件数

令和6年度と比較して件数の変化が目立つ診療科としては、歯科口腔外科が437件減少、循環器科が168件、眼科が110件増加した。

■ R6年度 ■ R7年度

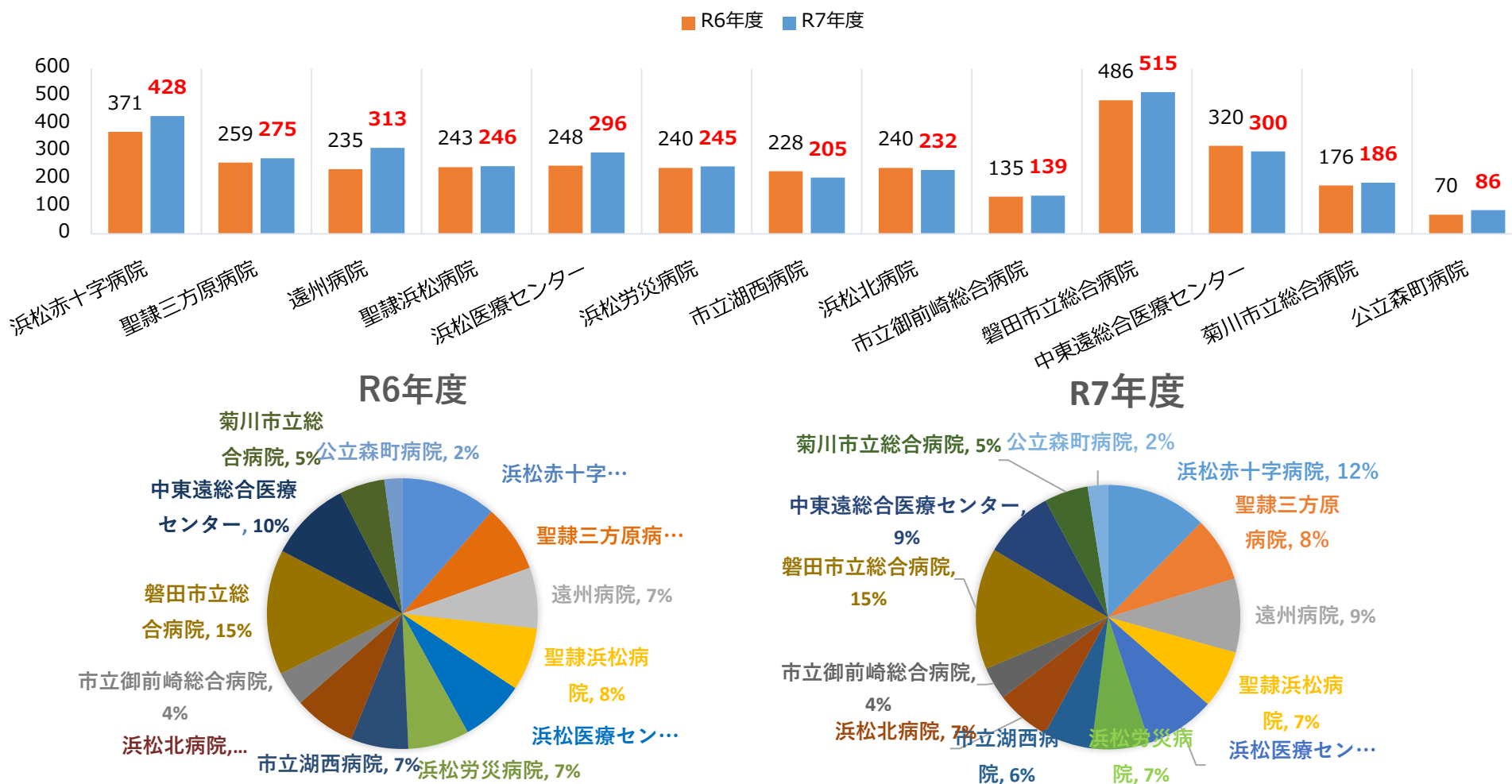


2

地域連携室

3 近隣医療機関からの紹介患者数の比較

令和7年度に近隣医療機関から紹介された患者総数は3,466件で、令和6年度の3,251件から215件増加した。割合で見ると、令和6年度とほぼ変わりはない。

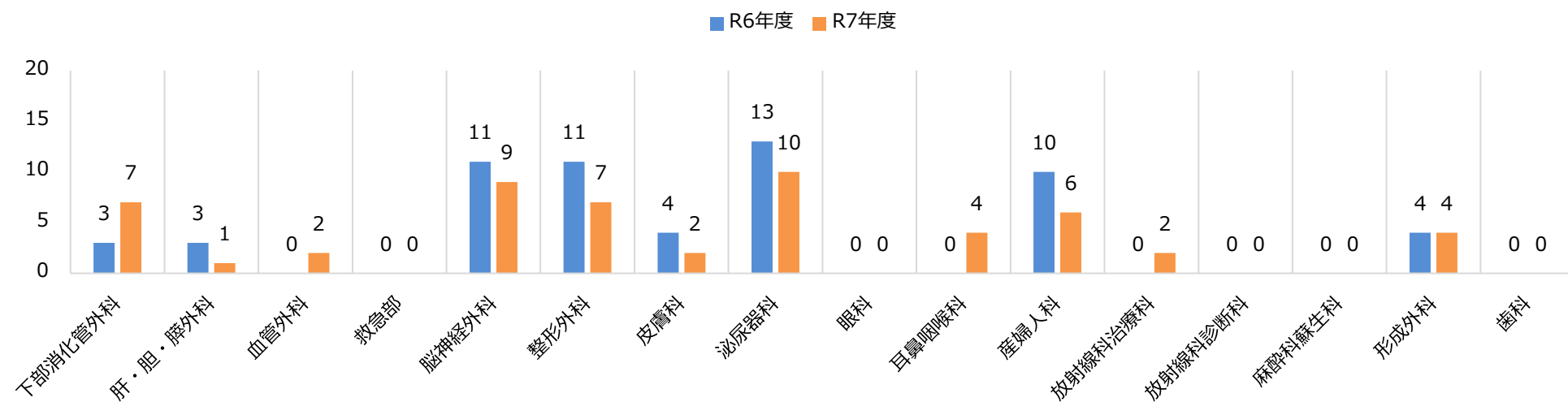
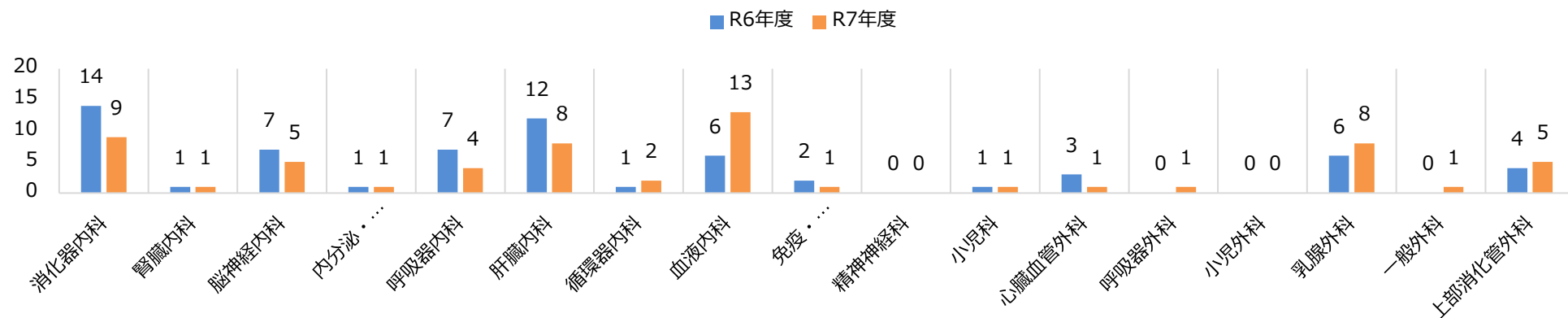


2 地域連携室

4 セカンドオピニオンの実績件数

令和7年度のセカンドオピニオン外来の実績件数は115件で、令和6年度の124件から9件減少した。

総数



2

地域連携室

5 セカンドオピニオン依頼件数

令和7年度のセカンドオピニオン依頼件数は66件で、令和6年度の68件から2件減少。
 静岡県内の医療機関への依頼件数は28件で全体の43%、県外への依頼件数は38件で57%である。

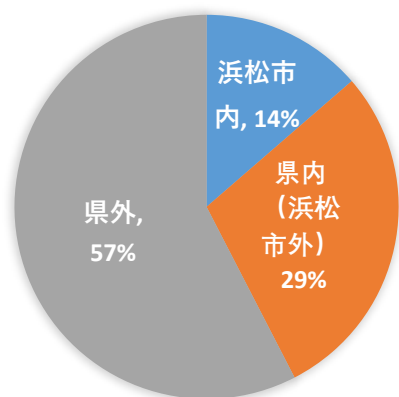
依頼先医療機関

【依頼先医療機関】

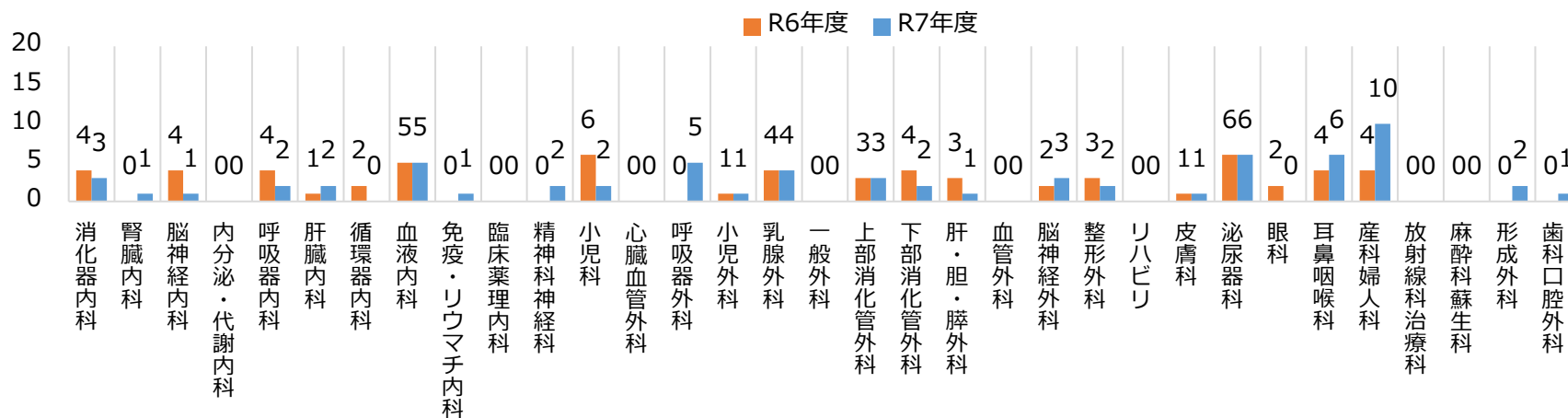
静岡県立静岡がんセンター
 がん研究会有明病院
 愛知県がんセンター
 名古屋大学医学部附属病院
 聖隷浜松病院
 TOKYO免疫統合医療クリニック
 金沢大学附属病院
 国立がん研究センター 中央病院
 磐田市立総合病院
 静岡県立こども病院
 乳腺外科ナグモクリニック名古屋院
 中部国際医療センター

榊原記念病院
 脳神経外科 福島孝徳記念クリニック
 国立成育医療研究センター
 あさぬまクリニック
 東京大学医学部附属病院
 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院
 東京大学医科学研究所附属病院
 岡山大学病院
 名古屋市立大学病院
 国立大学法人富山大学附属病院
 浜松医療センター
 松田病院

すずかけセントラル病院
 藤田医科大学岡崎医療センター
 東京女子医科大学病院
 聖マリアンナ医科大学病院
 聖隷三方原病院
 渡辺医院・浜松オンコロジーセンター
 南和友クリニック
 南東北がん陽子線治療センター
 成田記念陽子線センター
 神奈川県立がんセンター
 藤田医科大学病院
 藤田医科大学ばんだね病院

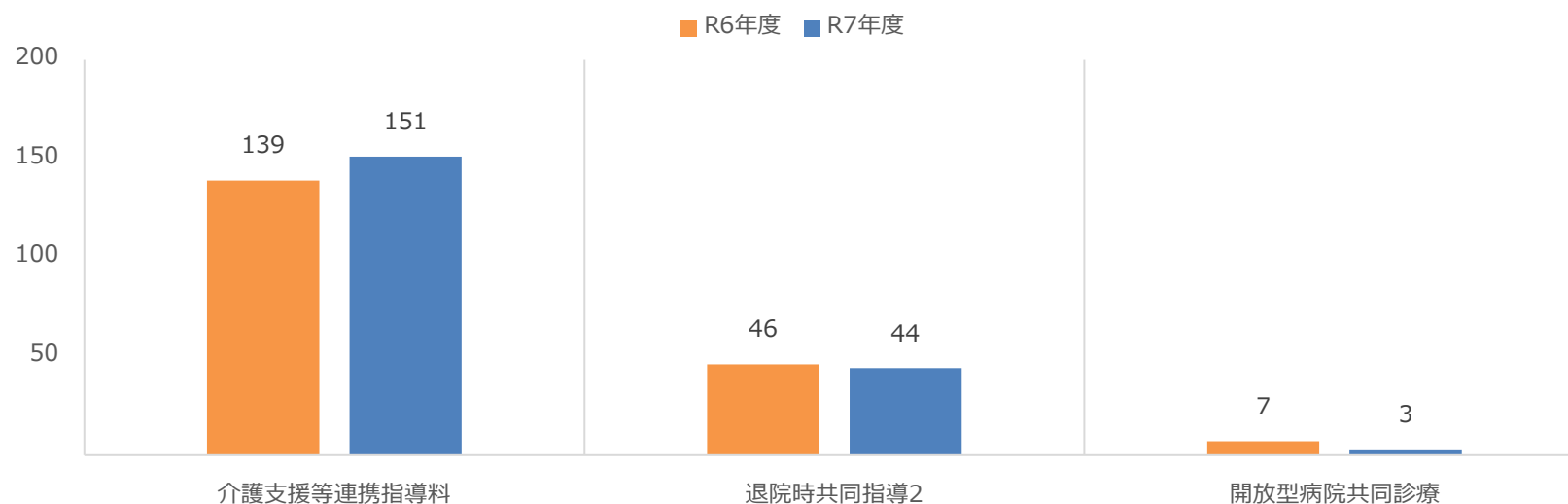


セカンドオピニオン依頼件数



6 介護支援連携指導・退院時共同指導2・開放型病院共同診療実績

令和6年度と比較して介護支援等連携指導料の算定件数は12件減少、退院時共同指導料2は2件減少、開放型病院共同診療は4件減少した。

**【令和8年度目標】**

- ・新規患者の獲得
- ・紹介元への返書管理、返書率向上
- ・医療DXの推進



3 医療・福祉部門

- 1) 医療福祉の相談
- 2) 入退院・在宅療養支援

1 相談支援件数の推移

●新規相談件数は3,987件だった。月別にみると、4月5月の年度初めに相談件数が多かったが、年度末、特に年明けからは新規の相談件数が落ち着いており、それに伴い年間の相談件数が減っていたと思われる。今年度から救急外来と連携し救急外来来院患者で支援が必要と思われる患者のピックアップと関わりを持つことになり、救急外来から自宅に戻った方についても地域へ繋ぐ取り組みができるようになった。

新規相談件数の内訳としては、例年通り入院患者の転院支援や在宅支援を中心、制度の紹介や医療費の相談といったことの件数が増えている(表2)。上記理由での入院患者の拾い上げによる早期の介入とともに、上記にも上げた救急患者の広家が等により外来患者の相談件数も増加をしていた。老々介護、一人暮らしの高齢者、キーパーソンがいないなど、家族スタイルの変化により対応が困難なケースが増えており、退院や転院、在宅支援に難渋するケースが増えている。行政も含めた検討が必要に感じる。

表1 年度別新規相談件数(件)

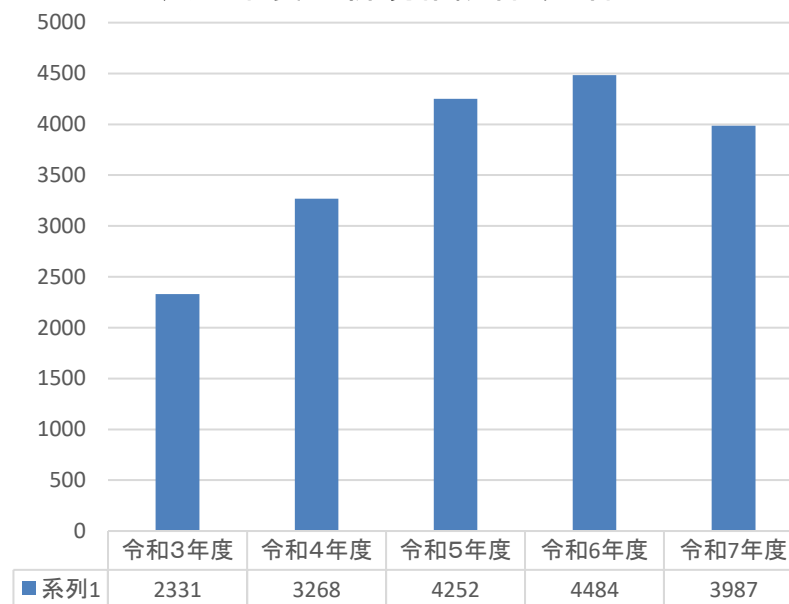


表2 主な相談件数(件)

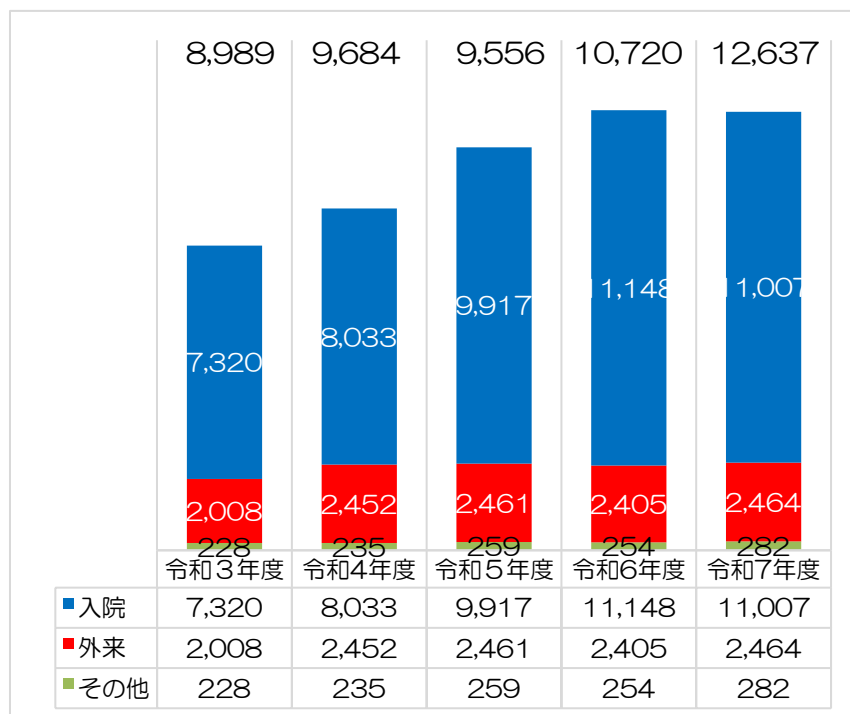
	令和6年度	令和7年度	増減
退院支援	1211	1340	△129
在宅支援(入院患者)	575	660	△85
制度の紹介	488	395	▼93
医療費の相談	362	312	50
福祉介護の相談	190	169	▼21
医療処置に関して	92	115	△23
当院の受診について	162	102	▼60
在宅ケア調整(通院患者)	108	115	△7
診療所・他院へ連携(外来患者)	132	41	▼91
生活費の相談	88	70	△18

3-1

医療・福祉部門 医療福祉の相談

●対応した回数は、12,637回で前年度より1,917回増加した(表3)。主な相談回数としては、転院支援に6,383回、入院患者の在宅支援に3,090回関わっていた。転院には1件につき4,7回、在宅支には1件につき4,6回関わっていたことになる。先に挙げた身寄りのない方などの支援で自宅に帰れずに他施設への調整で難渋するケースが増えていることに関わっているのかもしれない。

表3 年度別対応回数(回)



●転院の相談をクラウド上でやり取りするCSREBOOKの導入を行っている。令和7年度利用件数1,050件、延べ1,613機関への打診を行った。チャットのやりとりは10,917回となり、大幅な電話時間が削減でき、やりとりの漏れもなくなったため業務の効率化が図られた。

●ヘルプマークの配布状況

令和5年度 339個配布

令和6年度 491個配布

令和7年度 553個配布

◆配布者は女性64%、男性35%。

◆身体障害者等の手帳保持者39%

◆年齢別配布割合

～10歳 5%

10代 6%

20代 4%

30代 5%

40代 11%

50代 24%

60代 20%

70代 24%

80代以上 1%



2 虐待対応

【高齢者・障害者・DV虐待防止委員会】

高齢者虐待・障害者虐待・DV被害を疑う相談があった件数は9件、内訳は高齢者虐待5件、障害者虐待0件、DV被害4件であった。虐待種別としては、身体的虐待疑いが6件と最も多く、次いで心理的虐待、性的虐待、ネグレクト疑いが1件ずつと並んだ。臨時委員会開催件数は0件であり、既に行政や警察が介入しているケースであったり、委員長に確認し、本人または地域包括支援センターへの情報提供までとするケースが多くあった。定例委員会は、年3回(1月・5月・9月)開催した。今年度は対応ケースの共有に加えて、委員会名の変更についてや研修会の開催について協議した。また、院内スタッフの接遇に対する苦情対応に関して委員長が対応し、委員会で今後対応していくか検討する予定。

【児童虐待対応委員会】

児童虐待や児童虐待を疑うケースを発見し臨時委員会を開催した件数は10件、うち児童相談所や市区町へ通告を行った件数は7件であった。また虐待には至らないが養育環境に心配があるケースとして関係機関や院内スタッフから相談を受けたケースは87件となっている。今年度は委員会の医師と共同で、夜勤帯や土日祝に虐待を発見したり、気になる子どもや保護者、妊産婦を発見した職員が虐待の重症度や緊急性を踏まえて対応ができるよう「児童虐待スクリーニングシート」を改定し導入することができた。また救急部の勉強会に参加したり、定期的に情報共有を行うなかでケースの振り返りや初期対応について検討をすることができた。倫理コンサルテーションチームや高齢者虐待・障がい者虐待・DV対応委員会など他の委員会と共同でケースにあたる機会も多く得た。

今年度も院内教職員と学生向けに「児童相談所の業務について」「児童養護施設からみた子どもの貧困・虐待の背景と支援」をテーマに研修会を2回開催し多くの参加者を得ることができた。

3 障害年金相談会

社会保険労務士が当院に来院して障害年金に関しての相談に対応する、障害年金相談会を年4回開催し、今年度は10名の参加があった。障害年金の専門家に相談できる貴重な機会であり、入院外来問わず患者及び家族から参加希望がある。社会保険労務士と有用な情報共有ができており、来年度以降も継続していきたい。

〔開催日〕

令和7年 4月10日	4名
令和7年 7月10日	0名
令和7年10月10日	2名
令和8年 1月10日	4名
	10名

障害年金

相談

無料

病気や事故などで日常生活が不自由になったり働くことが制限されたとき、障害基準を満たしていれば障害年金がもらえます。

年金制度のしくみとは？

受給額の計算方法

障害年金の基準は？

日程

07月10日（金）

事前予約枠～4名

当日受付開始～12:30

当日受付終了～16:30

※当日の無料駐車場券の発行は致しません

時間

13:00～17:00

場所

浜松医科大学病院
外来棟1階 医療福祉支援センター

担当

静岡県社会保険労務士会所属
年金相談員

お問い合わせ

医療福祉支援センター

Tel 053-435-2772

受付 9:00～17:00

3 医療・福祉部門

- 1) 医療福祉の相談
- 2) 入退院・在宅療養支援

3-2

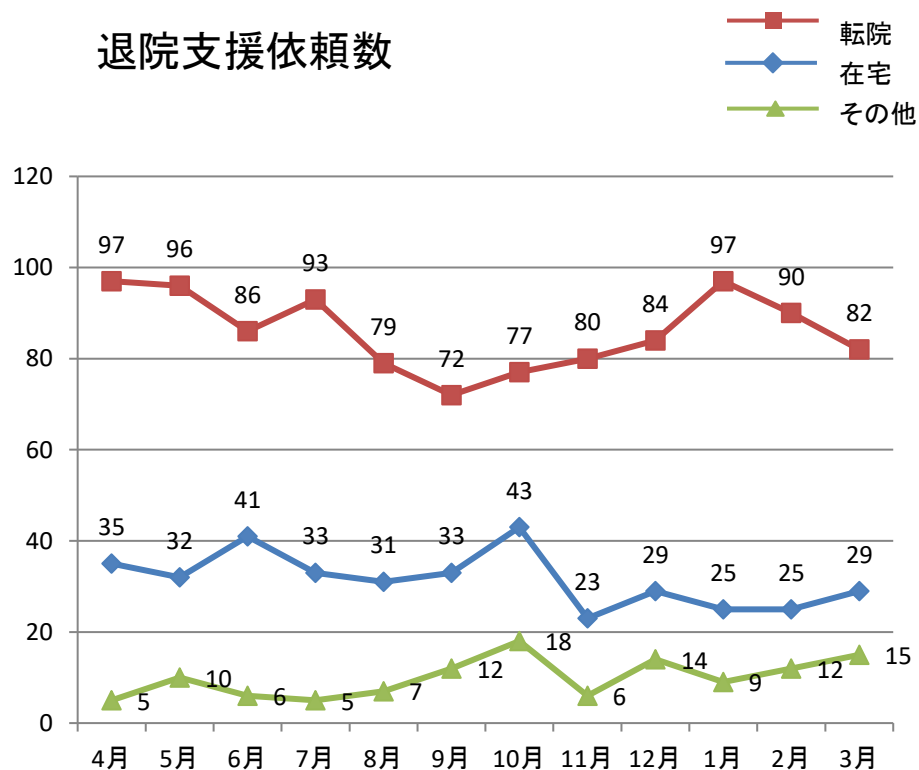
医療・福祉部門 入退院・在宅療養支援

1 退院支援依頼と実績

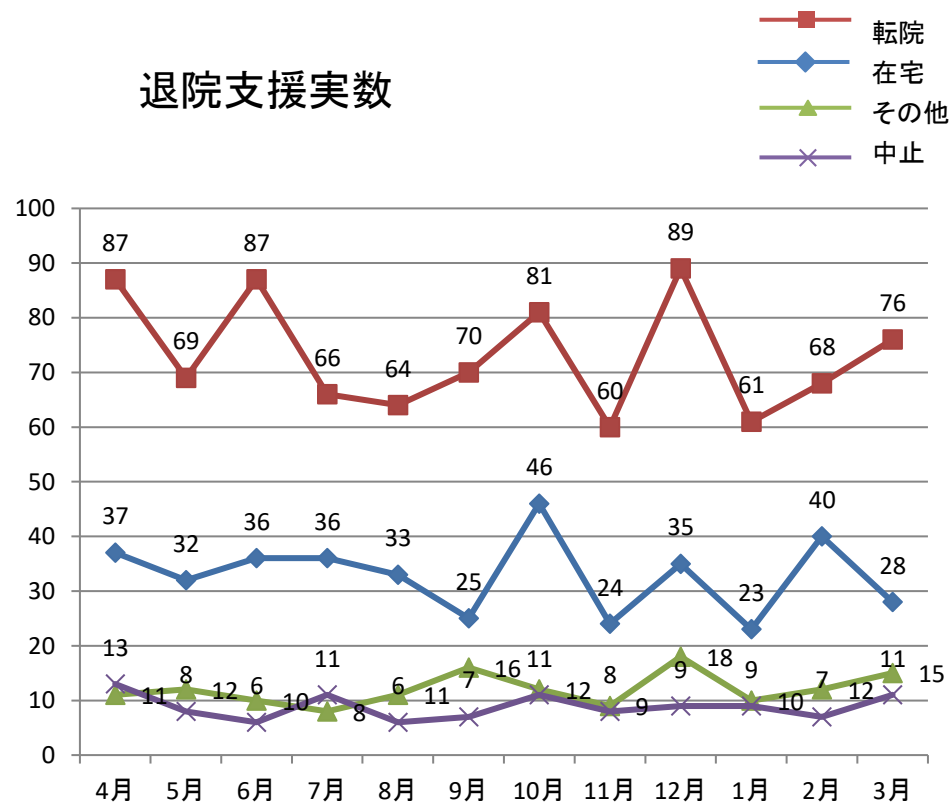
令和7年度の退院支援依頼数は1531件で前年度より16件増加した。今年度は毎月100件以上の依頼があった。社会的背景の複雑な患者の増加に伴い退院支援を必要とする患者も多く、依頼数が年々、増加している。

退院支援実績は在宅調整395件、転院調整878件、その他調整144件であった。今年度は、転院や医療対応型有料老人ホーム、施設に転院する患者が多い傾向にあった。

退院支援依頼数



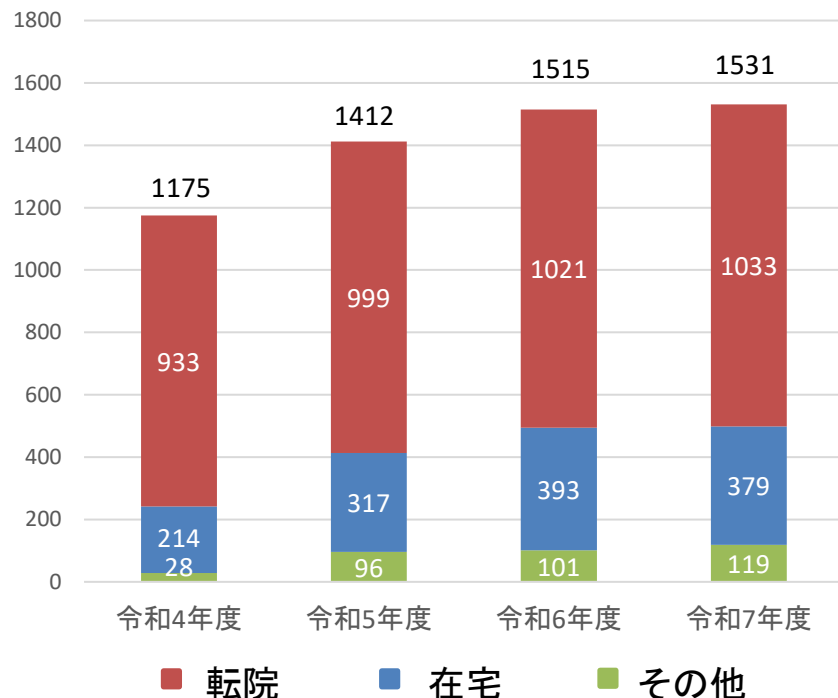
退院支援実績



3-2

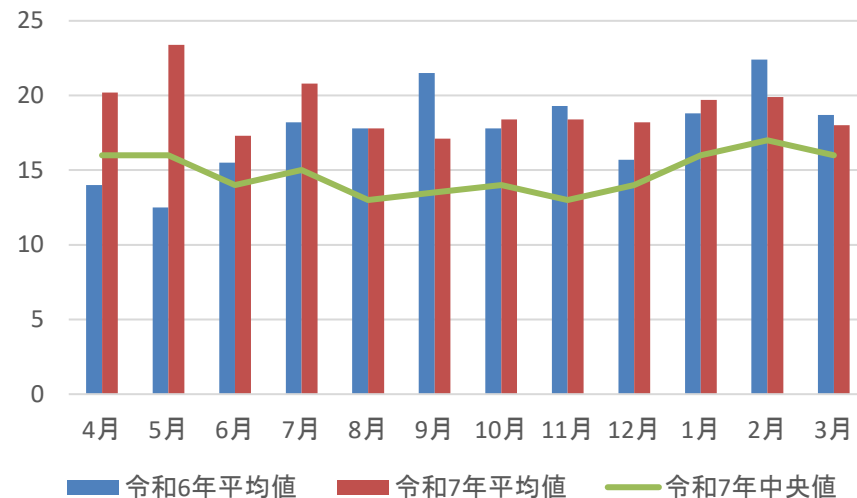
医療・福祉部門 入退院・在宅療養支援

2 退院支援依頼件数の年次推移



退院支援件数は年々増加しており、今年度は過去最高の依頼数となった。
退院支援病棟専従者の配置や8つの病棟の週1回の退院支援カンファレンスに訪問看護師、ケアマネジャーが参加され、多職種でカンファレンスを実施できているため、きめ細かい在宅への支援が継続的に出来るようになった。

3 退院調整日数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和6年平均値	14	12.5	15.5	18.2	17.8	21.5	17.8	19.3	15.7	18.8	22.4	18.7
令和7年平均値	20.2	23.4	17.3	20.8	17.8	17.1	18.4	18.4	18.2	19.7	19.9	18
令和7年中央値	16	16	14	15	13	13.5	14	13	14	16	17	16

退院支援依頼を受けて介入を開始してから退院までに要した日数を「退院調整日数」と定義する。

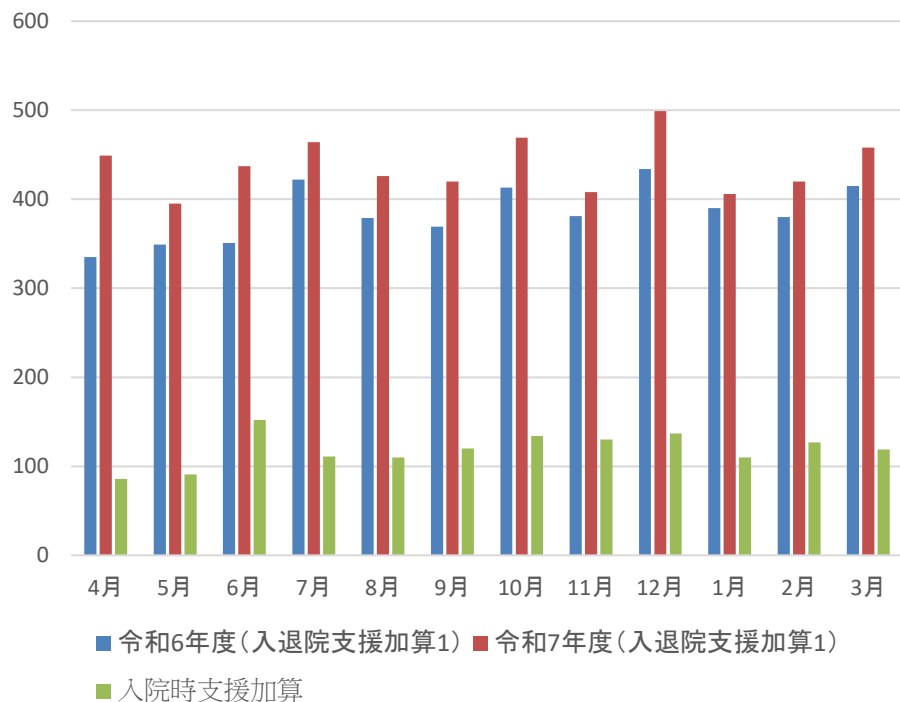
今年度の平均調整日数は18.2日、中央値は12日であった。

社会的背景が複雑な患者が増加しており、退院調整に日数を要する患者も増加しているため、早期より入退院支援の介入をしていく。

3-2

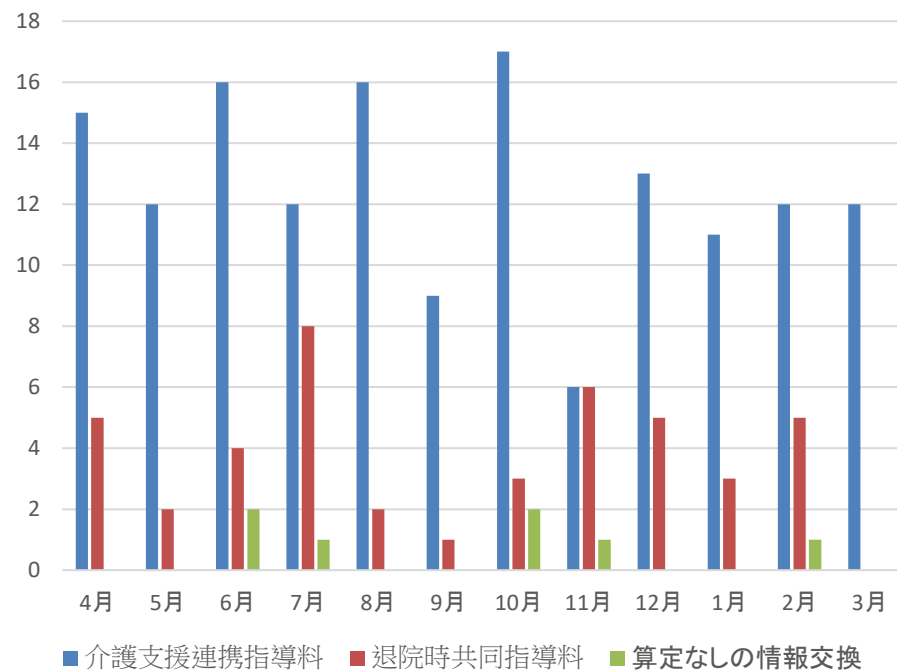
医療・福祉部門 入退院・在宅療養支援

4 入退院支援加算1算定数件数



入退院支援加算1の算定数は5251件であった。「退院困難な要因」の患者の増加により、算定数が増加している。また、8月から入院時支援加算1の算定数も開始した。入院前看護面談の患者の増加により算定数も増加している。

5 院外・地域との情報交換や訪問

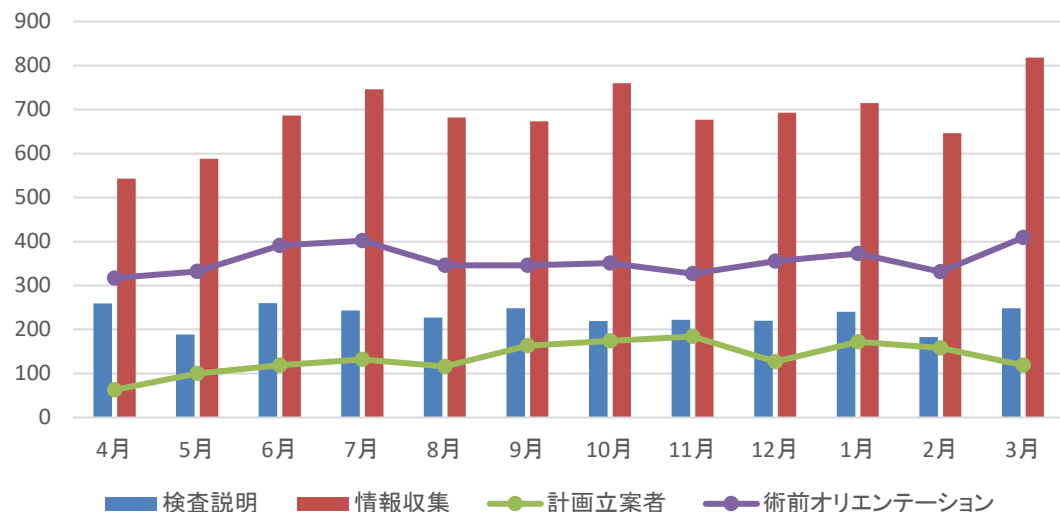


介護支援等連携指導料は151件であり、昨年度より上昇した。社会的背景の複雑な患者や医療依存度が高いまま在宅で生活される患者も増加してきている。そのため、今後も地域との連携を強化し、積極的にカンファレンスを行うことで、シームレスな連携を目指して行きたい。

3-2

医療・福祉部門 入退院・在宅療養支援

6 メディカル・サポートエリア実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査説明	259	189	260	243	227	248	219	222	220	240	183	248	2758
情報収集	543	588	686	746	682	673	760	677	693	715	646	818	8227
計画立案者	63	100	119	132	116	163	174	184	127	172	158	119	1627
術前オリエンテーション	317	332	391	402	346	346	351	327	355	373	331	409	4280

入院前の看護面談は、8227件と昨年を大きく上回った。手術件数の増加に伴い、術前オリエンテーションの説明も増加している。患者が安心・安全な入院生活が送れるよう今後も入院前から多分野の専門職が連携して患者さんを支援できる体制を整えていきたい。

【令和8年度目標】

院内外からの多様なニーズに柔軟に対応すると共に、地域の医療機関や福祉サービスとの連携を深化させる。

4 がん相談支援センター



4 がん相談支援センター

今年度ががん相談に当たった回数は、3,371回(うち成人は3,152回、小児は219回)。内訳として当院の患者さんから多く相談いただいた(表1)。その内初めて利用した方の相談回数は年間997回(小児・成人あわせて)。今年度ががん相談の約3割が初めて相談に来る方であった(表2)。

昨年度と比較し相談回数は567回減少。初めて相談に来た方の相談回数の割合は同じである。今後のがんと診断された方へ相談窓口の普及啓発を行い、入院・外来・院内外問わず相談対応をしていきたい。

表1 受診方法別相談回数 前年度比較(回)

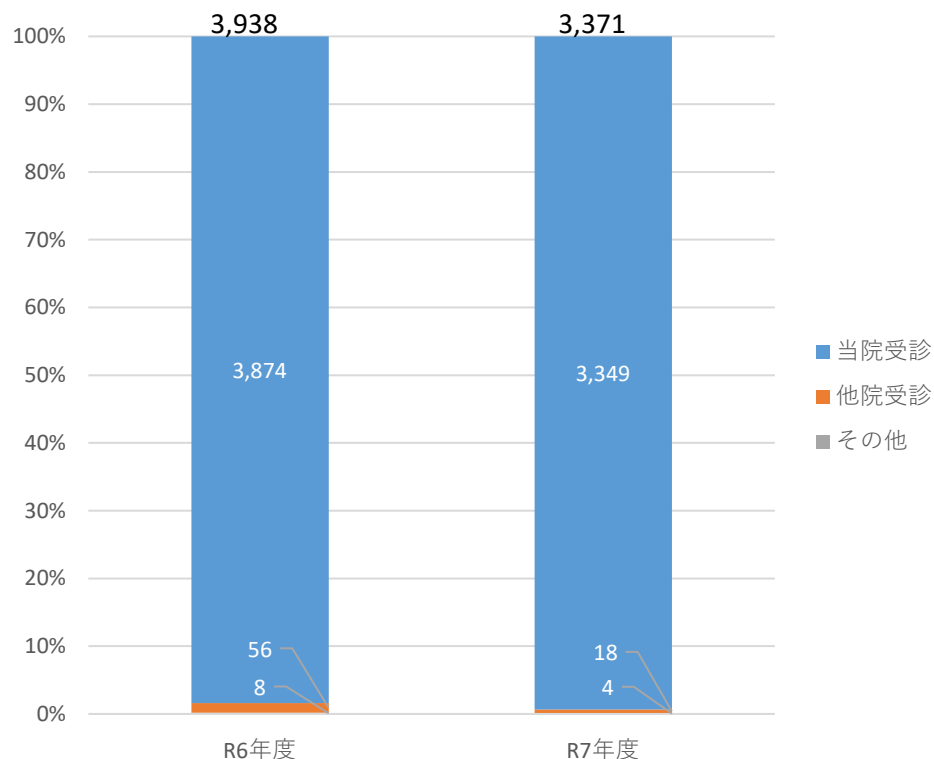
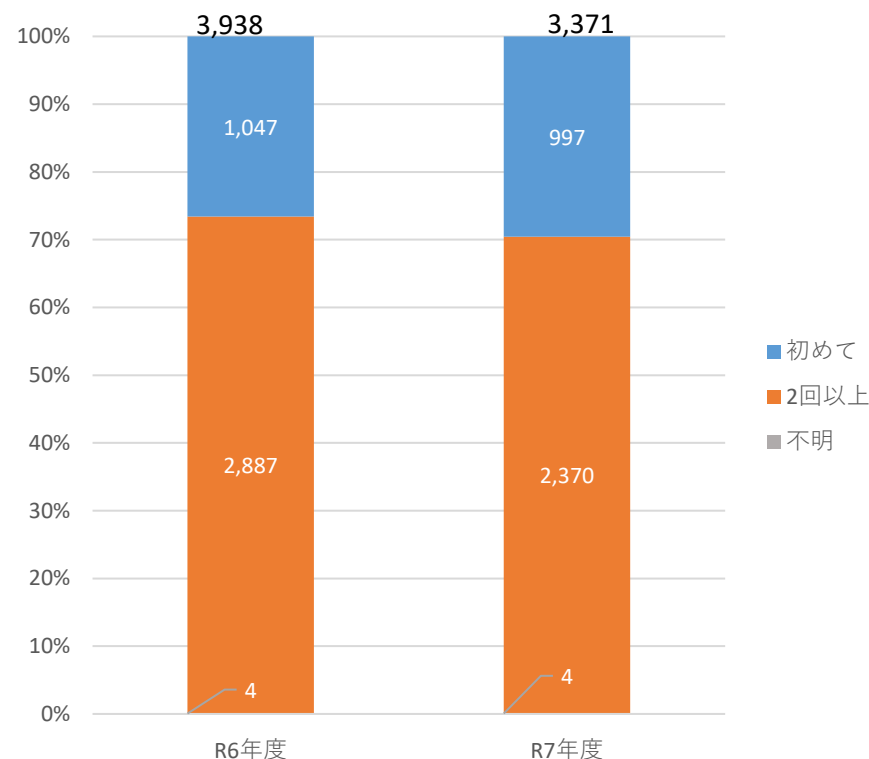


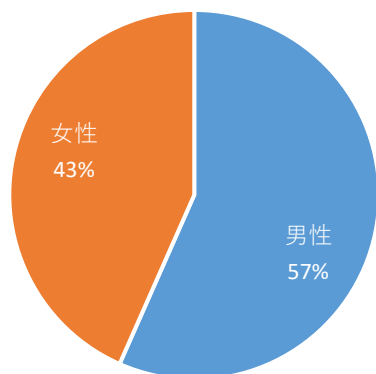
表2 利用回数 前年度比較 (回)



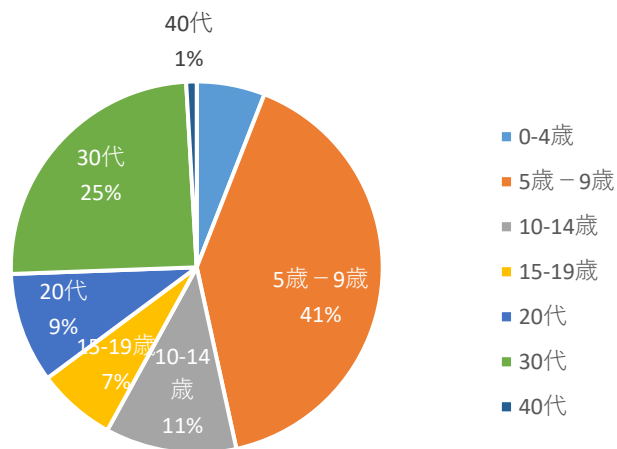
4 がん相談支援センター

【表3 男女・年齢別相談回数(回)】

令和7年度 患者性別



令和7年度 患者年齢



【表4 年間 相談内容 トップ5(回)】

1 医療費・生活費・社会保障制度	62
2 在宅医療	61
3 療養相談	
4 食事・服薬・入浴・運動・外出など	6
5 その他	34

小児の基準は介護保険の対象とならない40歳未満としている。

男女別では男性、年齢別では5～9歳の方についての相談が多くなっている(表3)。

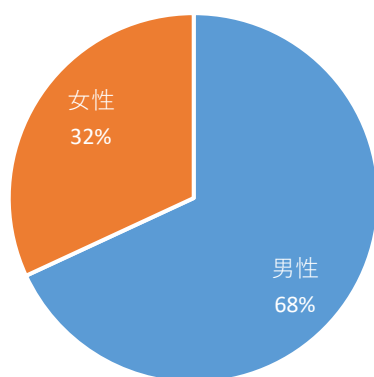
相談内容は「医療費・生活費・社会保障制度」「在宅医療」「療養先」の順で多くなっている(表4)。

入院中の患者さんへの支援がほとんどで、退院調整や小児慢性医療費助成制度をはじめとする福祉制度のご案内が多い。

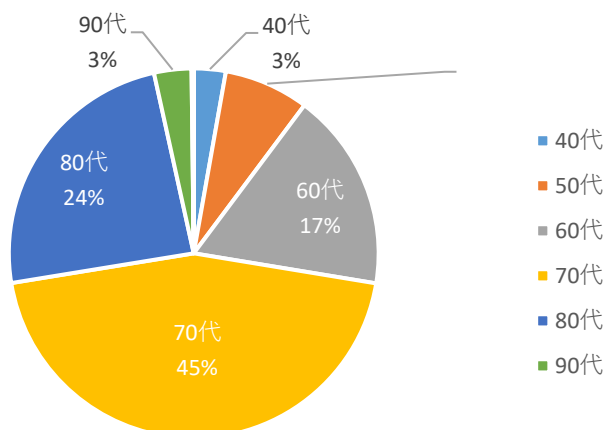
4 がん相談支援センター

【表5 男女・年齢別相談回数(回)】

令和7年度 患者性別



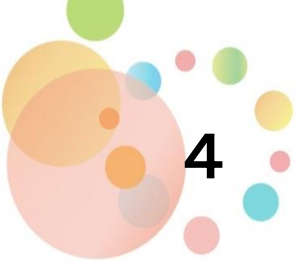
令和7年度 患者年齢



【表6 年間 相談内容 トップ5(回)】

1 転院	1,027
2 在宅医療	874
3 療養相談	497
4 ホスピス・緩和ケア	184
5 医療費・生活費・社会保障制度	180

男女別では男性、年齢別では70代の方への相談が多くなっている(表5)。相談内容では「転院」「在宅医療」「療養相談」の順で多くなっている(表6)。入院中の方への在宅・転院調整の相談、そこに伴う療養生活に関する相談が多い印象。医療費等社会保障制度に関する相談も多く、今後も積極的に支援を続けていく。



4 がん相談支援センター

乳がん患者会スノードロップ

今年度の参加者総数は65名。うち新規申し込み者は14名だった。
前半で下記学習会、後半はフリートークとした。世話人が2人1組で当番回を担当して開催内容を検討しており、来年度も継続予定。

今年度は世話人の希望もあり外部講師を招く講義を多く実施することができた。コロナ渦での制限も大分緩和されてきている。今後も世話人や参加者からのアンケートを元に開催していく。

令和7年 4月23日(水) 『不安との上手なつきあい方』

講師: まちの看護相談室り〜ぶ 番匠千佳子 氏

7月23日(水) 『女性がん経験者と更年期障害』

講師: 当院 産婦人科 成味恵 医師

※スノードロップ提供の学習会・交流会

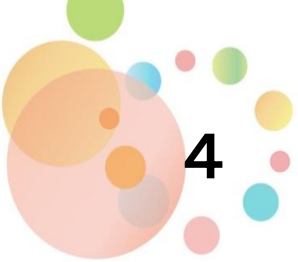
院内通院のすべてのがん患者さん・家族等を対象

10月22日(水) 『健康美を維持しましょう～正しい姿勢と歩き方で毎日笑顔でたのしく～』

講師: ウォーキングインストラクター 稲石早織 氏

令和8年 1月22日(水) 『漢方医学～気血水とめぐりについて～』

講師: 当院 産婦人科 小泉るい 医師



4 がん相談支援センター

就労支援

がん患者さんの新規就労や就労継続の相談窓口として相談を受けている。

ハローワーク職員や、静岡県産業保健総合支援センターの治療と仕事の両立支援についての専門家である、両立支援専門員と連携している。患者さんの希望にあわせて各機関を紹介し、当院で初回面談も実施している。今年度も患者さんからの要望に応じて面談の場をセッティングした。

病院だけの就労支援には限界があるため、今後も各機関と連携して支援していきたい。

浜松市がん診療連携拠点4病院実務者ミーティング

がん患者の就労促進、情報共有を目的に、基本毎月浜松市の担当者と市内のがん診療連携拠点4病院の相談実務者が集まり、ミーティングを実施、講演会等の企画運営を行っている。

9月は市内や近隣市町村でがん診療を実施している医療機関を対象とした、「アピアランスケアに関する医療従事者向け講演会」を開催。外見ケアについて医療者から患者さんへアドバイスができるよう、メイク業者からご講演いただいた。

10月は「浜松・湖西地区がん患者就労支援ネットワーク協議会」を開催。行政、患者会、医療機関などが参加した。コロナ渦以降初の完全対面開催として実施。両立支援以外のトピックも各機関から報告いただき特徴や役割理解の場とした。

2月は「浜松市がん患者就労支援講演会」を開催。両立支援に積極的に取り組む企業の代表取締役社長からご講演いただいた。医療従事者を中心に、企業、行政、一般市民などの参加があった。

治療と仕事の両立支援を行うためには、企業の理解と病院など関連機関の協力が必要になる。今後も講演会等を通した普及啓発を行い、両立支援により一層力を入れていく方針である。

R7.9.26(金) アピアランスケアに関する医療従事者向け講演会(WEB開催)

R7.10.24(金) 浜松・湖西地区がん患者就労支援ネットワーク協議会

R8.2.4(水) 浜松市がん患者就労支援講演会(WEB開催)

5 難病医療相談支援室



1 令和7年度 難病医療相談支援室 目標

1. 難病医療従事者研修会の再生回数を各回ともに300回以上をめざす
2. 災害時マニュアルを見直す

【目標の背景】

- 1 難病医療従事者研修会を定期的に行っていることで受講者の背景が掴めてきた。難易度が高過ぎても低過ぎても再生回数は伸びない。受講者の理解度とニーズに応じたテーマを講師に伝えることで再生回数の増加をはかる。
- 2 病棟再編成後で病室の人口空気や酸素の配管が変更されており、難病災害時マニュアルと実際の配管が異なっていることが分かった。難病患者の災害時事前入院の取り組みもあるため、マニュアルの見直し修正が必要である。

【目標の評価・反省】

1. オンライン研修会は当初YouTubeを利用して公開していたが、再生回数の増加に伴って講義の途中に広告が頻回に入り視聴しにくくなってしまった。そのためGoogleフォーム配信に切り替えたところ再生回数がカウントできなくなってしまった。第1回講演公開後2週間のみで再生回数223回と前年度の平均を超える数だった。Googleに切り替え後は申し込み数とアンケートで評価している。本年度の申し込み数が最も多かったのは225名。オンライン研修会は昨年度と同様に5回開催できた。さらに、本年度は対面研修会を1回開催し34名が出席した。

2. 難病災害時マニュアルは、病棟再編成後の人工空気や酸素の配管に修正し改訂した。また、昨年度にデモを実施した災害時事前入院については、担当外のスタッフでも対応できるように、単独で新たにマニュアルを作成した。

2 令和7年度 難病医療相談支援室 活動実績報告

【主催・共催】

- ・難病医療従事者講習会 6回（Web5回・対面1回）
- ・災害時難病患者受け入れ訓練（Web2回）
- ・災害時難病患者事前入院試行
- ・静岡県難病患者災害支援連絡会（対面）
- ・難病患者さんの為の就労相談会（5/16・7/25・12/5）
- ・難病ニューズレター発行（6刊/第36号～第41号）

【参加】

- ・事例検討会（静岡県難病情報交換会） 6
- ・学会 3
（難病医療ネットワーク学会・箱庭療法学会・臨床心理学会）

3 令和8年度 難病医療相談支援室 目標

1. 難病医療従事者研修会の申し込み人数が各回200名に達する
2. 在宅難病患者一時支援事業補助金制度を利用した入院調整を実施できる

【目標の背景】

1. 昨年度の申し込み人数はおおよそ200名弱であったが、講義によっては100名に満たないこともあった。受講生のニーズに講義内容を計画して、受講生の満足度アップと申し込み人数の増加につなげたい。
2. 利用者側の経済的な負担が大きい制度のため、問い合わせは多いが実際に利用するには至らなかった。制度の改正により、負担が一部軽減されたことで希望者が増加すると予想される。院内の周知やマニュアルを整備して実績につなげたい。

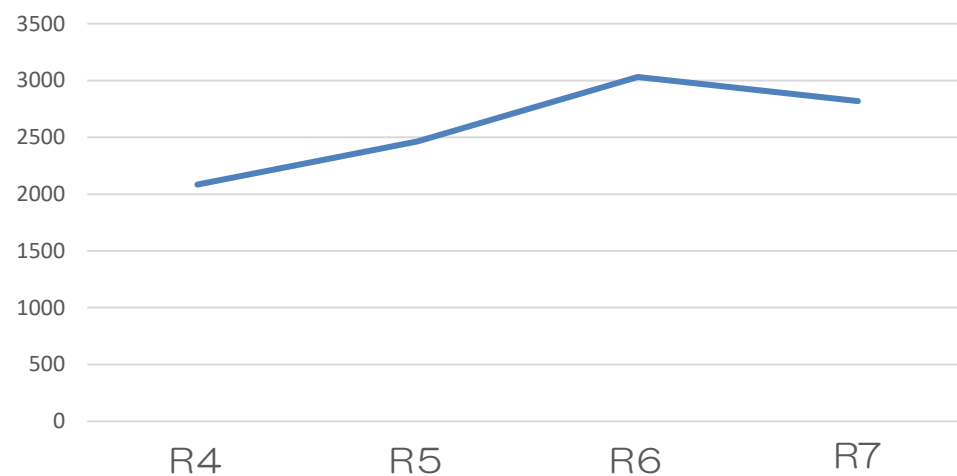
5

難病医療相談支援室

【参考】 難病相談について

年度	総相談数
令和4年度	2,084
令和5年度	2,465
令和6年度	3,031
令和7年度	2,820

総相談数の推移



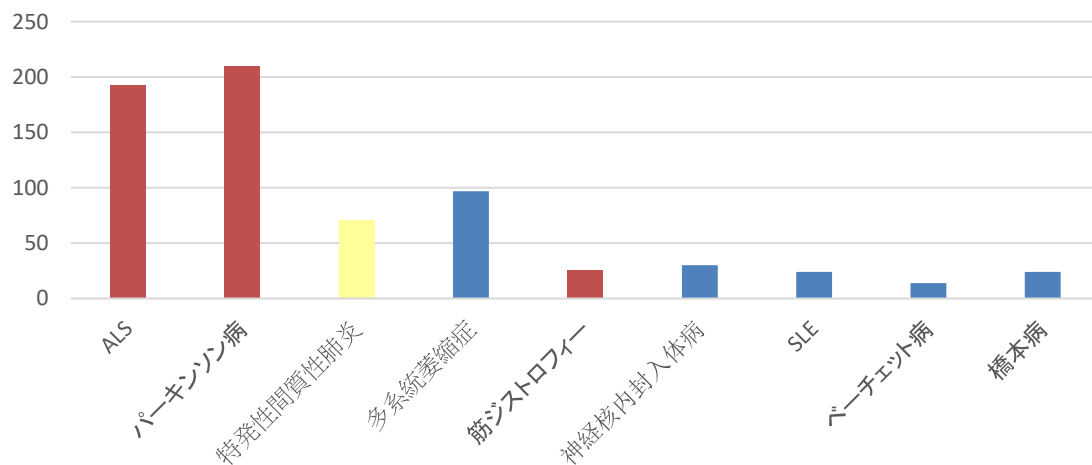
年度	新規相談数	再来相談数
令和4年度	270 (39%)	420 (61%)
令和5年度	346 (39%)	536 (61%)
令和6年度	355 (32%)	741 (68%)
令和7年度	314 (31%)	701 (69%)

5

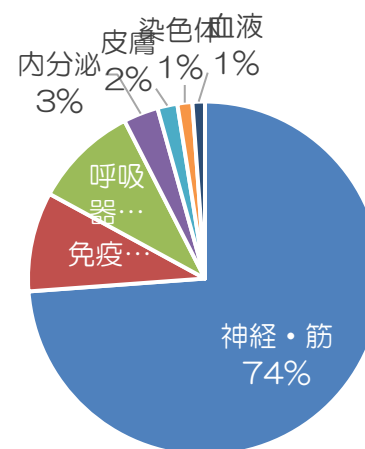
難病医療相談支援室

【参考】 難病相談について

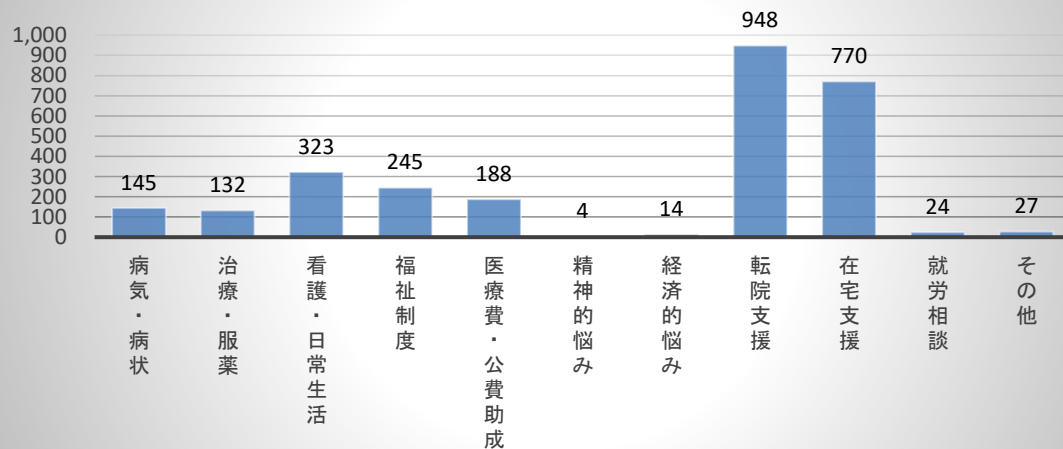
相談者疾患別利用回数



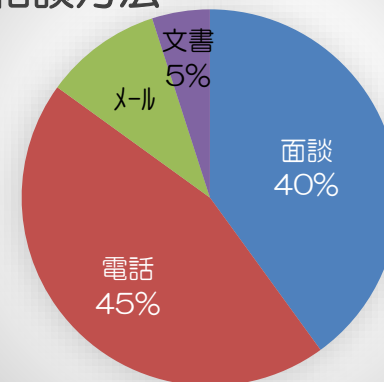
相談疾患群割合



相談内容（回）



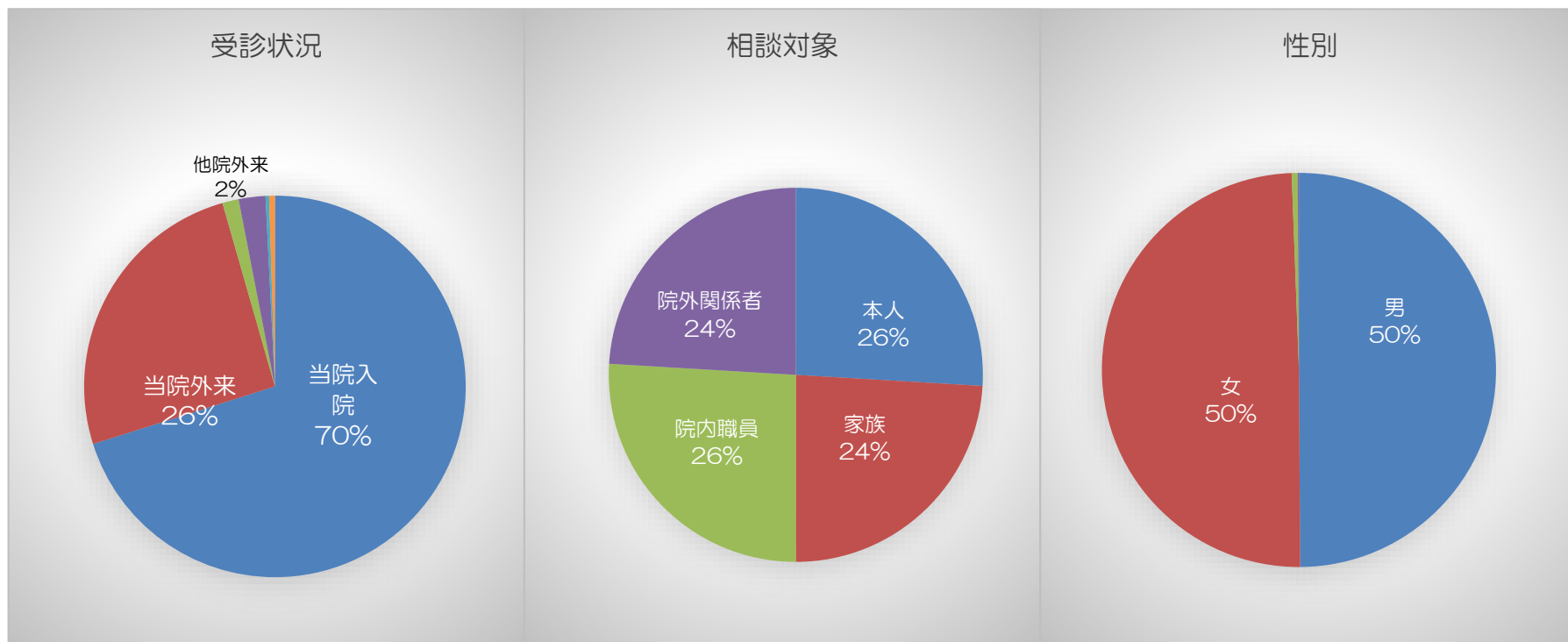
相談方法



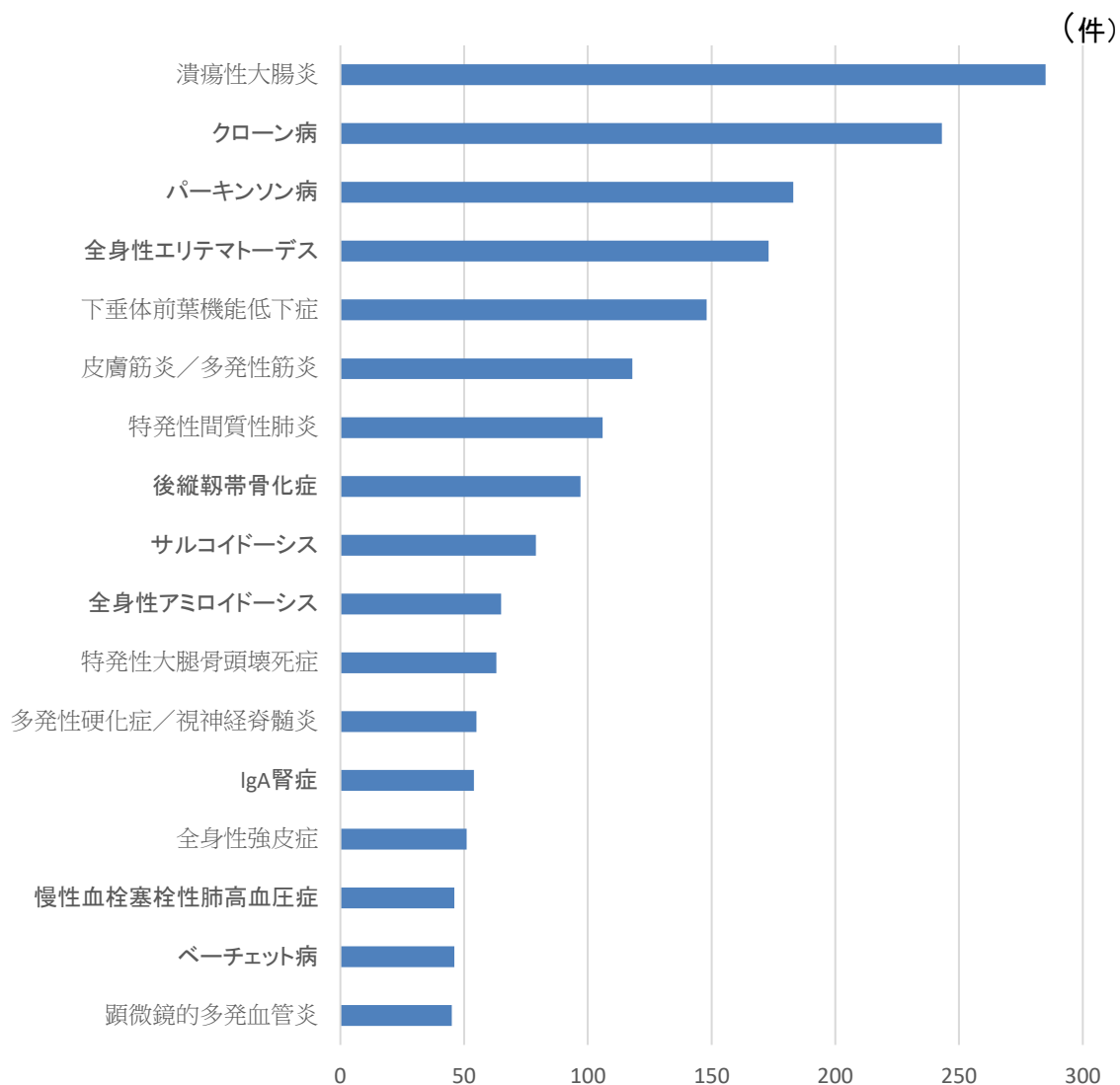
5

難病医療相談支援室

【参考】 難病相談について



【指定難病医療費助成制度対象疾患 診療実績】



【指定難病医療費助成以外対象疾患】

告知番号	病名	件数
8	ハンチントン病	1
36	表皮水疱症	1
91	バッド・キアリ症候群	1
173	VATER症候群	1
198	4 p 欠損症候群	1
277	リンパ管腫症／ゴーハム病	1

【参考】 難病医療従事者講習会実施結果

	開催日時	内容	講師	参加人数
第1回	R7.5.1～ R7.6.30	筋ジストロフィーの解剖・生理	浜松市発達医療総合 福祉センター 教授 遠藤 雄策 先生	225人
第2回	R7.7.1～ R7.8.29	筋ジストロフィーによる循環器疾患の病態・ 治療	浜松医科大学 内科学第三講座 特任准教授 早乙女 雅夫 先生	128人
第3回	R7.9.1～ R7.10.31	筋ジストロフィーに対するリハビリテーション ～運動支援と呼吸ケア	北斗わかば病院 リハビリテーション部 松下 太一 先生	89人
第4回	R7.11.4～ R7.12.31	難病患者のプレホスピタル対応～実例から 多職種連携強化を考える	浜松医科大学 救命救急士 近藤 誠人 先生	69人
第5回	R8.1.5～ R8.2.27	ACPとは何か	まちの看護相談室 番匠 千佳子 先生	149人
対面	R7. 10.17	・パーキンソン病との上手な付き合い方 ・PDのリハビリテーションと在宅生活の工夫	当院 中村友彦先生 北斗わかば病院PT 松下太一先生	38人

【災害時難病患者受け入れ訓練】

令和7年度静岡県総合防災訓練(本部運営訓練)、地震対策オペレーション2026(大規模図上訓練)に参加。

難病医療協力病院に対し、難病患者の受入可否の状況及び、病院の被災状況について照会メールで行い、疾病対策課に受入れ可能人数の回答結果を報告。

	回答施設	受け入れ可能な 入院人数	提供可能な 電源の数
令和7年度静岡県総合防災訓練	29	89	100
地震対策オペレーション2026	28	88	105

【災害時難病患者事前入院】

実施なし

【静岡県難病患者災害支援連絡会 R8.2.17 開催】

風水害に備えた在宅難病患者の事前避難入院について

講師 医療法人泰平会 城西クリニック

副院長 溝口 功一 先生

意見交換

1. 今回のテーマから感じた課題
2. 病院・保健所での防災訓練内容・改善点

平成27年度より、静岡県健康福祉部疾病対策課と共同開催。
出席者 県内の難病診療連携拠点病院及び、難病診療連携
協力病院の医師・看護師・MSW、防災担当や総務担当、
保健所難病担当者



【患者さんのための就労相談会】

令和7年12月5日(金)開催
難病患者さんの為の
就労相談会

まずは相談

はじめての一步

【お問合せ先】
浜松医科大学医学部附属病院
難病医療相談支援室
TEL: 053-435-2477
(平日 8:30 ~ 16:45)

日時: 令和7年12月5日(金)
13:30~16:30
予約制・お1人1時間程度
(当院受診中の患者さん対象)

場所: 浜松医科大学医学部附属病院
医療福祉支援センター
(外来棟1階)

2017年より開催。
総相談人数 66人

開催状況

第1回	2025年5月16日 3名
第2回	2025年7月25日 3名
第3回	2025年12月5日 2名

5

難病医療相談支援室

【ニュースレター】

第36号 R7.4月

臨床調査個人票について
 県有施設の利用料金の減免について
 指定難病の拡大・変更について

第37号 R7.7月

令和7年度 難病医療従事者講習会(対面)について

第38号 R7.9月

災害時難病患者受け入れ訓練について

第39号 R7.11月

難病医療従事者講習会について

第40号 R8.1月

災害時難病患者受け入れ訓練について

第41号 R8.3月

R7年度 難病患者災害支援連絡会について

【診療科調査】

無し



第39号 2025年11月吉日発行
 難病医療相談支援室
 浜松医科大学医学部附属病院内
 〒431-8192 浜松市中央区半田山1-20-1
 TEL/FAX 053-435-2477

散り敷いた落ち葉を北風が舞い上げる時節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

難病医療従事者講習会について

令和7年度対面難病医療従事者講習会にご参加されました皆様におかれましては、ご多用のところをご足労いただきまして誠にありがとうございました。ご参加の皆様からはパーキンソン病患者様・ご家族様へのエビデンス・ベースの支援熱意を感じました。活発な質疑応答では、講師の本音に笑いが生じたり、講師のプチ実技や講義資料にはないデータの提示などがあり、対面ならではの楽しい講習会になりました。

日頃より皆様のご協力に感謝いたします。

終了回について

【対面】
 <開催日時> 令和7年10月17日(金) 13:30~16:30
 <開催場所> JR静岡駅ビル 701シエ7階 第2・3会議室
 <実施内容> 1. テーマ1)：パーキンソン病との上手な付き合い
 2. テーマ2)：パーキンソン病のリハビリテーションと在宅生活の工夫
 ~明日からの臨床・支援に役立つポイント~
 <実施結果> 1. 参加人数 36名
 2. アンケート結果
 とても自分の学びになった：83.8%
 どちらかといえば自分の学びにつながった：16.2%
 3. アンケートご質問への回答は、当室HPに掲載しております。

[神経・難病センター 難病診療連携コーディネーターからのお知らせ | 浜松医科大学医学部附属病院](#)



テーマ1) 講師
 浜松医科大学 医学部附属病院
 脳神経内科 特任教授 中村友彦先生



テーマ2) 講師
 北浜わかば病院 リハビリテーション部
 科長 認定理学療法士 松下太一先生

6 肝疾患連携相談室



6

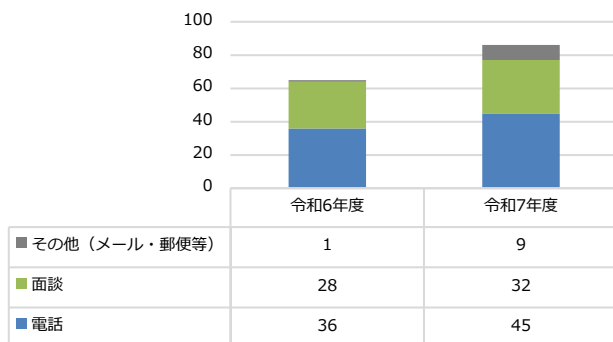
肝疾患連携相談室

静岡県肝疾患診療連携拠点病院事業実施報告

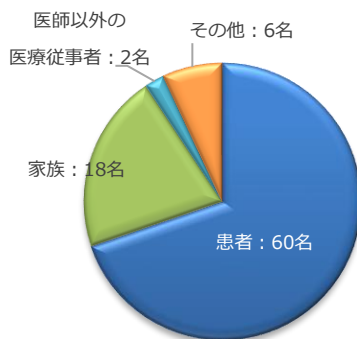
1 相談支援事業

2025年度の肝疾患連携相談室の相談件数は、年間86件(電話45件、面談32件、その他9件)であった。相談内容は、肝炎給付金の相談が50件と約半数をしめた。

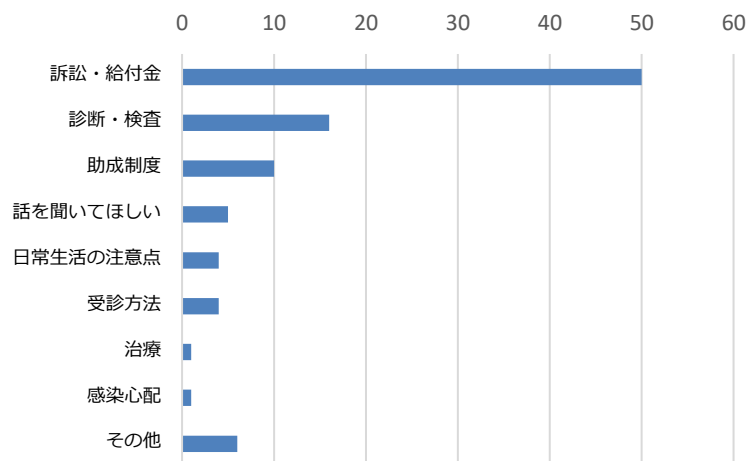
相談件数の年次推移



2025年度 相談対象



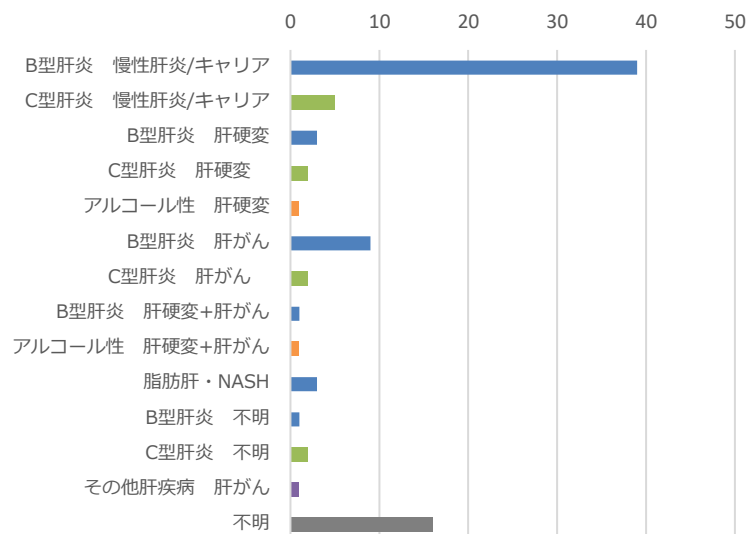
2025年度 相談内容別件数

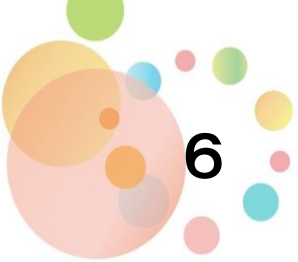


2 肝疾患診療連携拠点病院等連携連絡協議会

肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会は、静岡県肝疾患診療連携拠点病院である当院と順天堂大学医学部附属静岡病院が1年毎の交代制となり、2025年度は順天堂大学医学部附属静岡病院が企画・運営し連絡協議会を開催した。

2025年度 疾病別件数





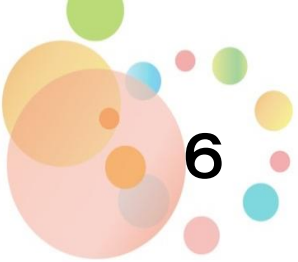
6

肝疾患連携相談室

3 医療従事者、地域住民等を対象とした研修会、講演会等

【1】 医療従事者を対象とした研修会等

- ①2025.6.18(水) 静岡県肝炎医療コーディネーター登録更新研修会 【集合型】
参加者:医療機関職員・市町・保健所・企業・団体・かんゆう会等患者団体等(22名)
内 容:「静岡県の肝炎対策」「B型肝炎ウイルスに対する」「グループワーク」
- ②2025.10.22(水) 肝疾患かかりつけ医研修会【ライブ配信】
参加者:医師等(28名)
内 容:「静岡県の肝炎対策」「脂肪肝について」「肝がんについて」
- ③2025.11.7(金)～30(日) 静岡県肝炎医療コーディネーター養成研修会 【WEB配信】
参加者:医療機関職員・市町・保健所・企業・団体・かんゆう会等患者団体等(119名:修了数)
内 容:「静岡県の肝炎対策」「静岡県の肝炎対策及びコーディネーターに期待される役割」
「ウイルス性肝炎の診断と治療」「肝硬変、肝がん、NASH等の診断と治療」
「拠点病院の活動報告」「患者団体の活動」
- ④2025.11.24(月)～12.14(日) 静岡県肝炎医療コーディネーター登録更新研修会 【WEB配信】
参加者:医療機関職員・市町・保健所・企業・団体・かんゆう会等患者団体等(96名:修了数)
内 容:「静岡県の肝炎対策」「肝硬変について」
「山梨県の肝炎Coの取り組み」
「肝疾患病態栄養専門管理栄養士について」
「抗原・抗体同時測定を用いたHCV感染早期拾い上げの取り組み」



6

肝疾患連携相談室

【2】 患者、患者家族及び地域住民を対象とした講演会等

1) 市民公開講座 『知って肝臓！ 肝臓の4講演』

2025.10.4(土) 島田市民総合施設 プラザおおるり: 集合型 参加者: 52名

内容: 「知らなきゃ損する！ 肝炎ウイルスvs.医療の最前線」

「目からはいって脳にしみこむ 脂肪肝の話」

「ここまで進歩している最新の肝がん治療～今、肝がんの常識は大きく変わっています！～」

「肝臓と筋肉は仲間です！～食事からはじめる肝活・筋活～」

「体験」InBodyを使い筋力測定、ベジチェックを使い野菜推定摂取量の測定

主催: 静岡県および静岡県肝疾患診療連携拠点病院 共催: 静岡県中部保健所

2) 医療健康講座 『知って肝臓！ 分ろう肝臓病』

2026.2.25(水) 浜松市立城北図書館: 集合型 参加者: 23名

内容: 「知らなきゃ損する！ 肝炎ウイルスvs.医療の最前線」

「ここまで進歩している最新の肝がん治療～今、肝がんの常識は大きく変わっています！～」

「体験」InBodyを使い筋力測定、ベジチェックを使い野菜推定摂取量の測定

主催: 浜松市立城北図書館および浜松医科大学医学部附属病院

3) 出張肝臓病教室

静岡県内の中学生及び高等学校を対象とした肝臓病教室を開催

県立高校(全日制): 4校、県立高校(定時制): 1校、私立高校: 3校、中学校: 1校

合計: 9校 参加人数: 2,668名

6

肝疾患連携相談室

4 肝疾患診療に関する情報収集及び情報提供

<肝炎に関する普及啓発と感染予防の推進活動>

1) 一般市民への普及啓発活動

① WEB広告

期 間	2025.7.1(火)～2026.2.28(土)
内 容	WEB上(Yahoo・Googleリスティング広告、YDN/GDNディスプレイ広告、YDNインフィード広告、Instagram)に広告を掲載
方 法	WEB上の広告をクリックするとランディングページへ移行、無料肝炎ウイルス検査受検の呼びかけを行う。
エ リ ア	静岡県内全域
年 齢	15歳～無制限(※GDNディスプレイ広告は、18歳以上～無制限)
利用者層	タトゥー・ピアスをしようと考えている方 (興味・関心として風俗、ドラッグなど肝炎リスクが高いと思われる方を含む)

② 院内普及啓発活動

⑦ 毎月28日(土・日祝日の場合は第四木曜日)を肝炎デーとした啓発活動

期間: 2025.4月～2026.3月

内容: ポスター掲示及び患者案内システムテロップの掲示、啓発用マスクシールをマスクに貼付し
および名札シールの着用

① 肝炎デー及び肝臓週間に関する普及啓発活動

日時: 2025.7.28(月)～8.1(金) / イベント7.31(木)

内容: ・「静岡県肝炎医療コーディネーター」所属先等において普及啓発活動用に作成したポロシャツ及びTシャツ、マスクを着用
・検査部、入院カウンター等において啓発資材を設置及び啓発グッズの配布
・新キャラクターの名前投票を実施「かんしろ君」に決定
・イベントでは筋力測定や野菜推定摂取量の測定、啓発グッズの配布



6

肝疾患連携相談室

③院外普及啓発活動

①BOOKアマノさん5店舗での啓発活動

期間: 2025.7.28(月)～8.3日(日)

内容: 各店舗において肝臓コーナーを設置及びポスター掲示、啓発グッズの配布

②浜松市内の医療/健康コーナーがある図書館での啓発活動

期間: 2025.7.1(火)～7.31(木)

昨年度同様浜松市西図書館及び浜松市内の医療/健康コーナーがある8か所の図書館において、浜松市保健所と協力し肝臓コーナーを設置

④静岡県合同啓発活動の開催

2025.7.26(土)日清プラザ・イトーヨーカドー三島店

内容: ミニ講演会、体組成測定・ベジメータ測定・握力測定
栄養相談、肝臓相談、肝炎体操

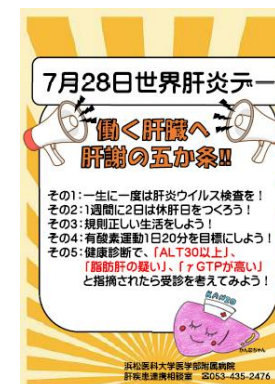
⑤ポスター展および体験イベントの開催

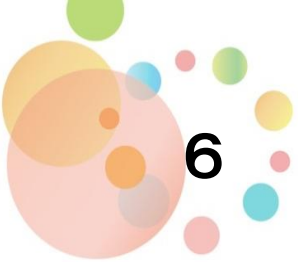
2025.12.17(水)～21(日) 磐田市中心図書館

2025.12.19(金)体験イベント

InBodyを使い筋力測定

ベジチェックを使い野菜推定摂取量の測定





6

肝疾患連携相談室

2) 当院の肝炎医療コーディネーターの育成

中・高校生を対象とした肝臓病教室、市民公開講座へ参加及び毎月28日のイベント、肝臓週間期間中の啓発活動及び打合せ会を開催した。

3) 「肝臓病手帳」の普及・推進活動の継続

肝臓病手帳配布数: 127冊配布

＜内訳＞医療機関へ配布: 5施設／80冊、保健所: 1施設／10冊、薬局: 1施設／10冊
一般市民へ配布: 27名／27冊

4) ウイルス検査陽性者への受診勧奨の推進

肝炎ウイルス検査陽性者の院内フォローアップの推進

2018.6.1より入院患者を対象に開始し、2019.7月より外来患者も加え実施

外来・入院患者の肝炎ウイルス検査陽性者をピックアップし、未受診患者の受診勧奨を医師へ依頼

＜結果＞

肝炎ウイルス検査陽性者はHBs抗原305名、HCV抗体170名計475名で昨年とほぼ変わらない数字であった。陽性者のうち328名、69%が肝臓内科の受診歴があった。昨年度とほぼ変わらない件数と割合であった。

残り147名の内、103名は肝臓内科の医師へ付箋依頼したが不要と判断した患者や肝臓内科への受診歴はなかったが診察記事等により付箋依頼不要と判断となった。

44名のカルテに肝臓内科受診・検査の付箋を添付し、8名は肝臓内科受診、31名はRNA検査実施・説明若しくは他院受診となった。

未受診者は4名であるが、今年に付箋添付をしたものであり、現在対応中である。

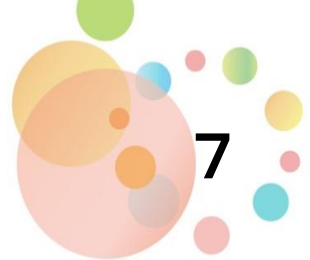
付箋添付数は昨年度と変化なく、肝臓内科受診後治療開始した人は4名であった。

5) 院内の肝炎ウイルス検査陽性者および陰性者への検査結果通知の推進

2025年8月1日より、迅速加算にて行う検査について、陰性/陽性に関わらず検査結果通知発行の運用開始

7 なんでも相談窓口



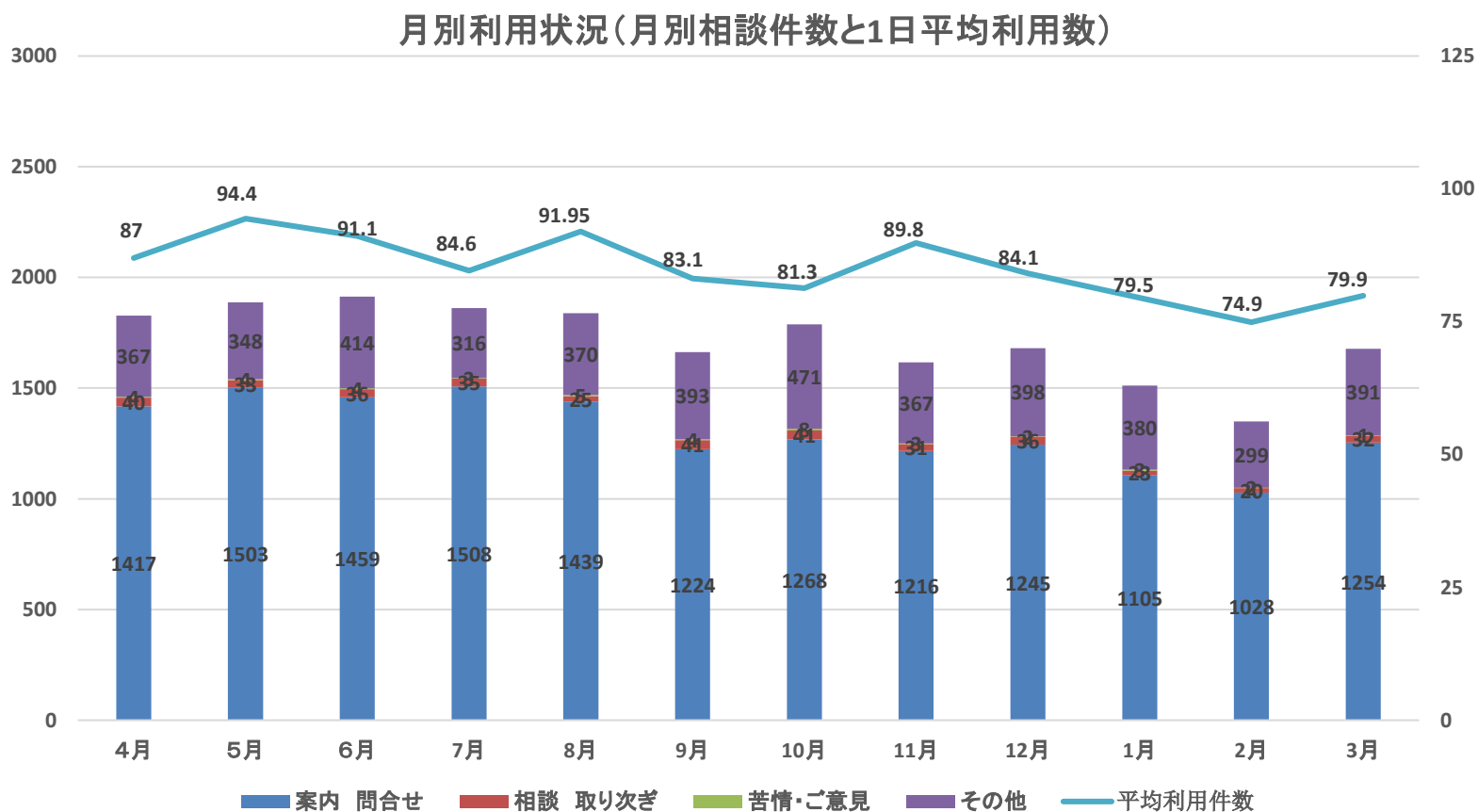


7

なんでも相談窓口

1 なんでも相談窓口稼働実績

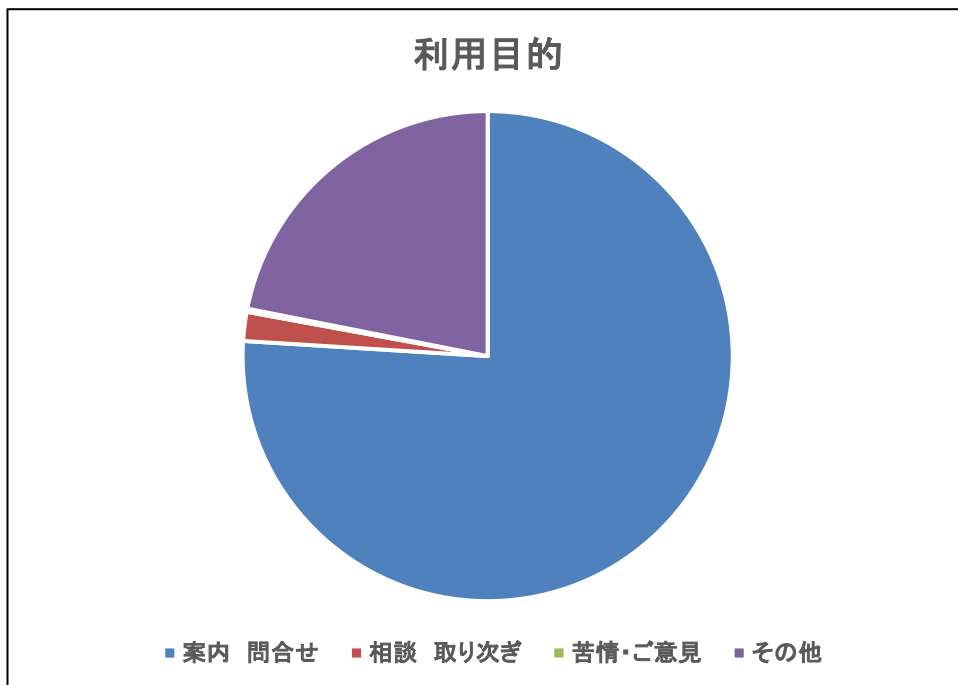
正面玄関で患者からの相談を一元的に受ける窓口として開設し、日々多くの方から利用いただいている。令和7年度は1日平均84件の利用受付があり、そのうちの8割が院内の案内や初診でのお問い合わせとなっている。看護師、保安員、事務、社会福祉士と多職種で対応しているが、基本的には話を伺い担当部署に案内をしている。



2 利用目的と案内・対応先

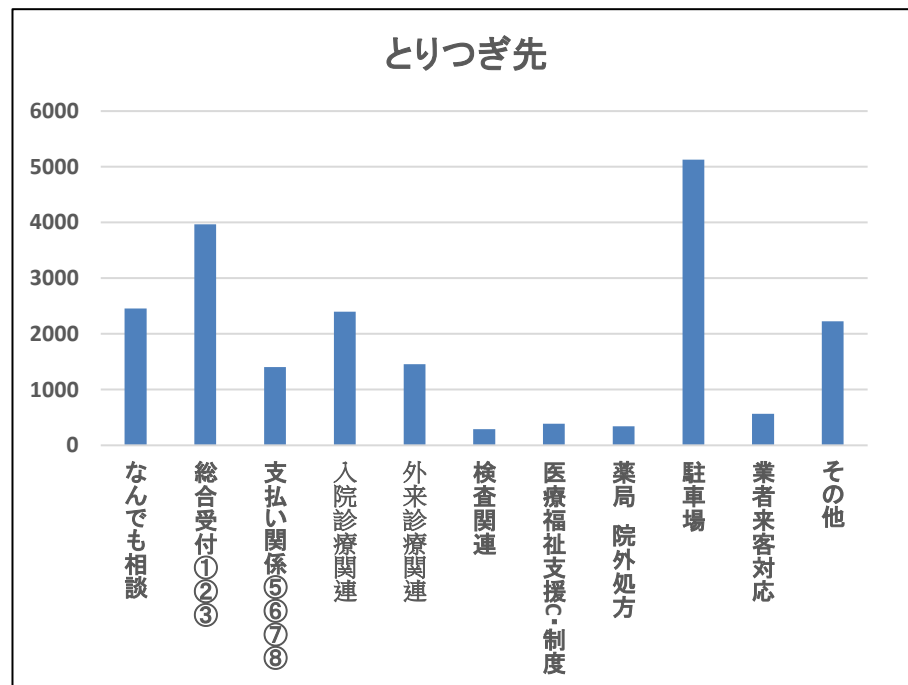
●利用の目的

ほぼ案内業務が占めている。相談・苦情については看護師、社会福祉士がお話を伺い関係部署に繋いでいる。また来院時の移動の補助や急変対応に看護師が関わることもあり、広く外来患者の受診の一助になっている。



●取次先

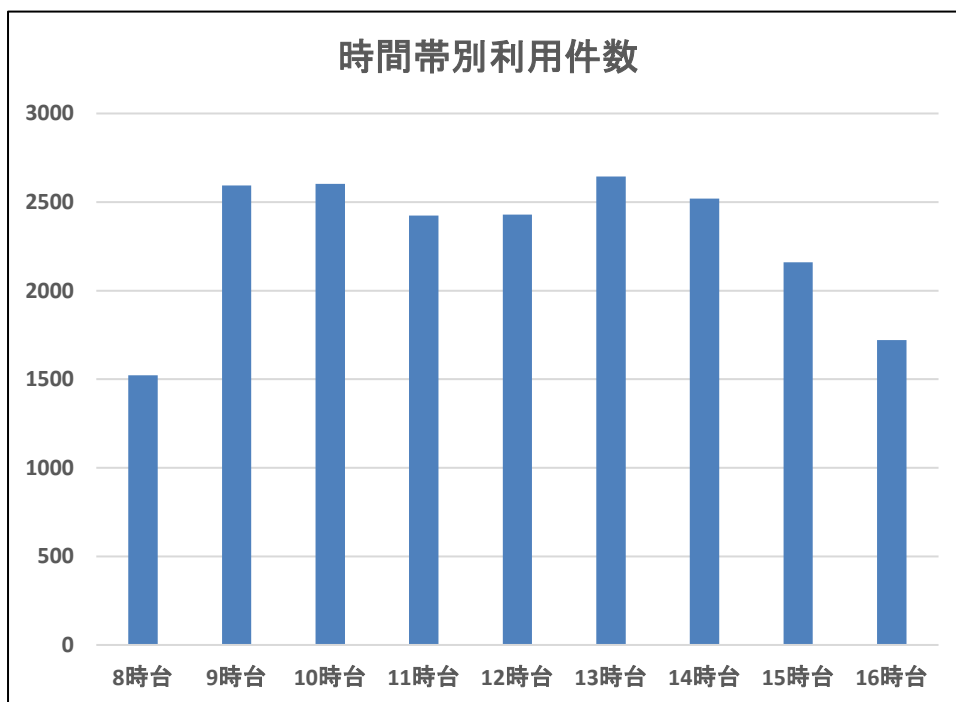
案内業務が多いため、駐車場係や初診対応の2番窓口、文書受付の1番窓口などが多くなっている。他に、各診療科や大学側の施設案内など多様な質問に答えている。



3 曜日・時間帯別利用件数

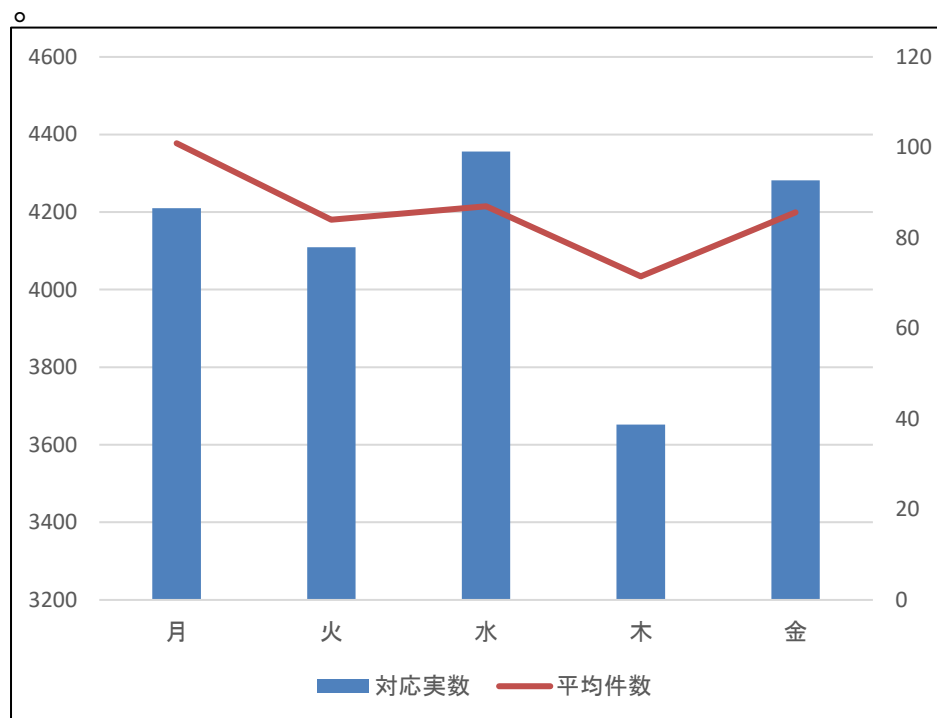
●時間帯別の利用頻度

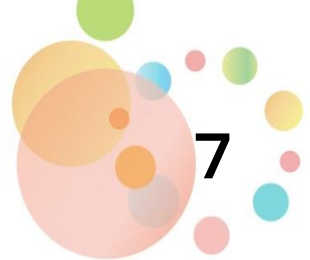
1日を通して大きな差は認められなかった。強いて言えば午後はやや落ち着く傾向があり、診察が早めに終了する影響から、13時頃に患者数が多い印象がある。ただし、全体として時間帯による大きな変動はみられなかった。



●曜日別利用数

月～金で対応数は大きな差はないが、水曜と金曜がやや多く、木曜は落ち込みがみられる。平均件数は月曜が高く木曜に低下し、週後半にかけて回復傾向。週初めは相談が集中しやすく、木曜は一時的に需要が緩む可能性が示唆される





7 なんでも相談窓口

4 苦情・ご意見

●苦情・ご意見

対応件数 43件

→・接遇、設備の不備について

・外来、地域連携室の電話が繋がらない

・駐車場関係

など

設備の不備や故障については施設課等の関係部署に連絡し対応を依頼している。

病院総務課等の他部署と医療サービスワーキングを行い、苦情報告と改善策の検討をしている。

8 脳卒中・心臓病等総合支援センター

1 活動報告

令和7年度、厚生労働省が公募した「脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業」に、浜松医科大学医学部附属病院が採択された。当センターでは院内にとどまらず静岡県と連携し、県内の医療機関や行政機関、看護・介護関連機関と協力しながら、脳卒中や心臓病の患者さんとそのご家族、また地域にお住まいの皆さまのさまざまな困りごとに対応できる医療ネットワークの構築を目指している。

初年度の主な取り組みとして、

- ・センター開設チラシの配布
- ・県内の医療機関や関係機関へのご挨拶
- ・連携構築・医療従事者向けWebセミナーの開催
- ・県民公開講座

などを行った。

静岡県は、脳卒中や心臓病の患者さんが多い地域とされている。当センターでは「相談支援」「情報提供」「予防啓発」の3つを柱に、県内の皆さまに広くご活用いただける体制づくりに取り組んでいく。

【初年度活動報告】

・ホームページ閲覧数 1,640回(R7.10～R8.3)

・相談件数15件

●県民公開講座(R8.3.29開催)

静岡市クーポール会館

・高齢化社会と心臓弁膜症 講師 村田耕一郎医師

座長 前川裕一郎医師

・脳卒中の予防と治療 最近の話題

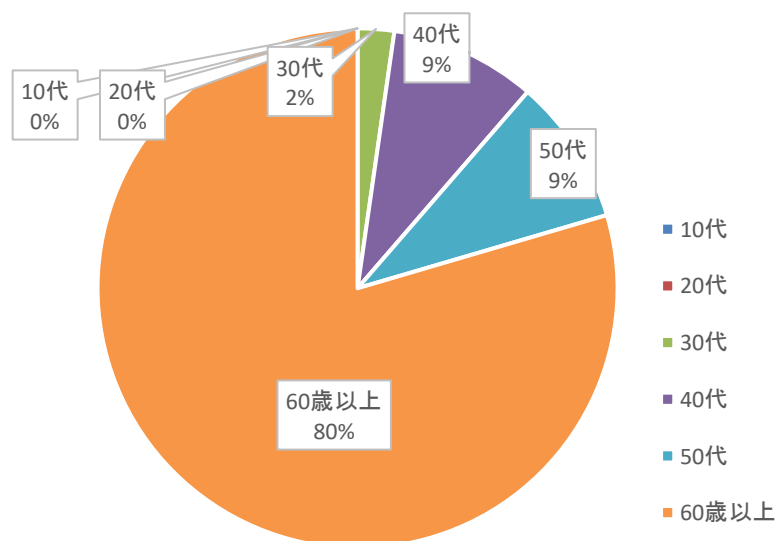
講師 塩川芳昭医師

座長 黒住和彦医師

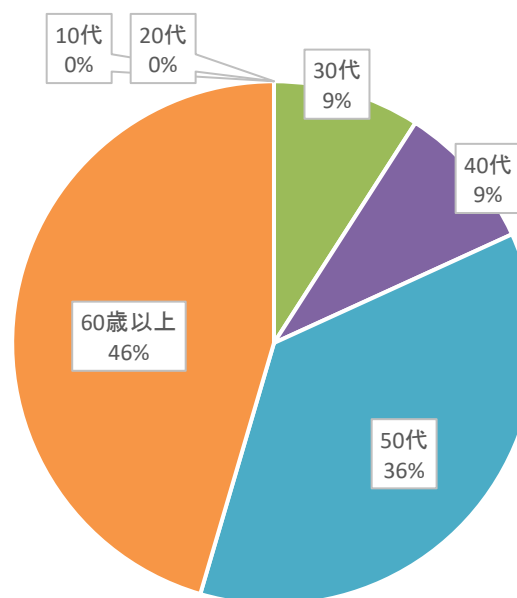
・参加者数 会場58名 WEB59名

2 県民公開講座 報告

会場参加者 年齢

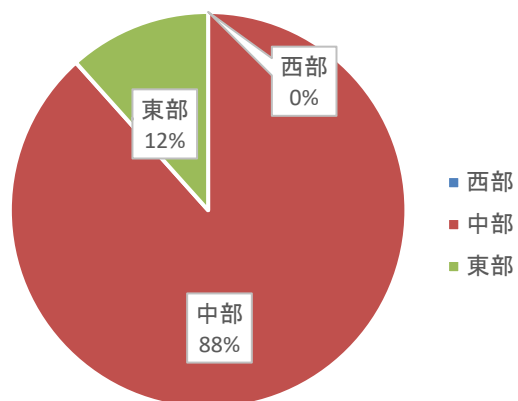


WEB参加者年齢

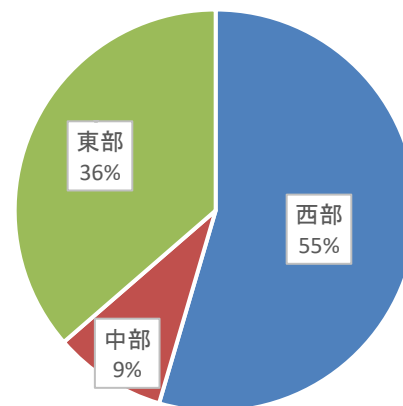


【県民公開講座 報告】

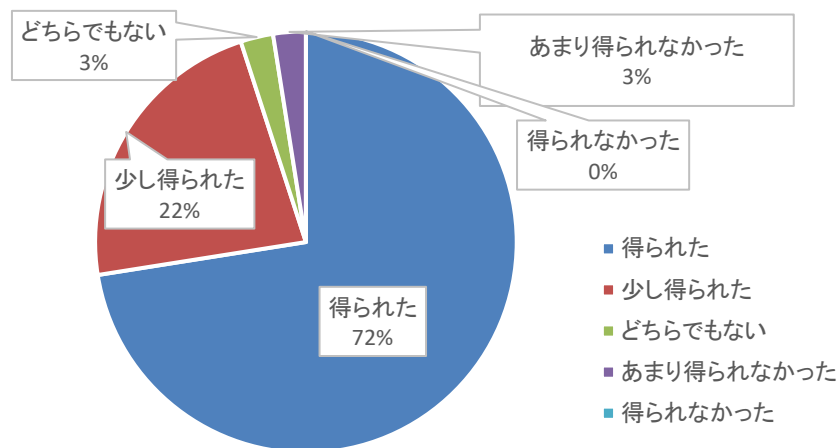
会場参加者 地域



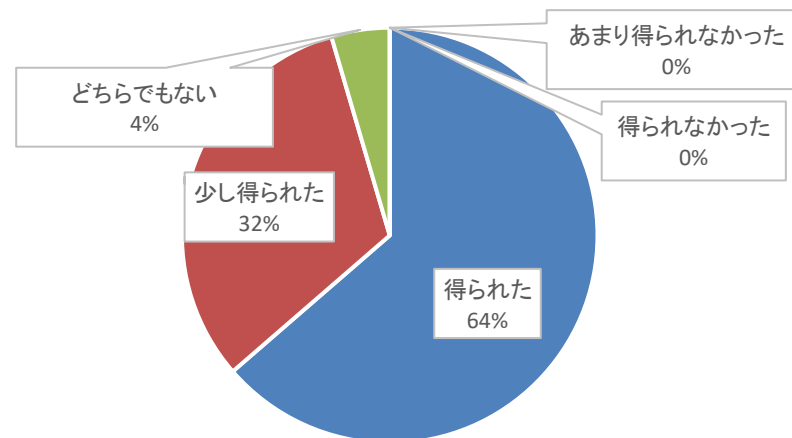
WEB参加者 地域



会場参加者 満足度

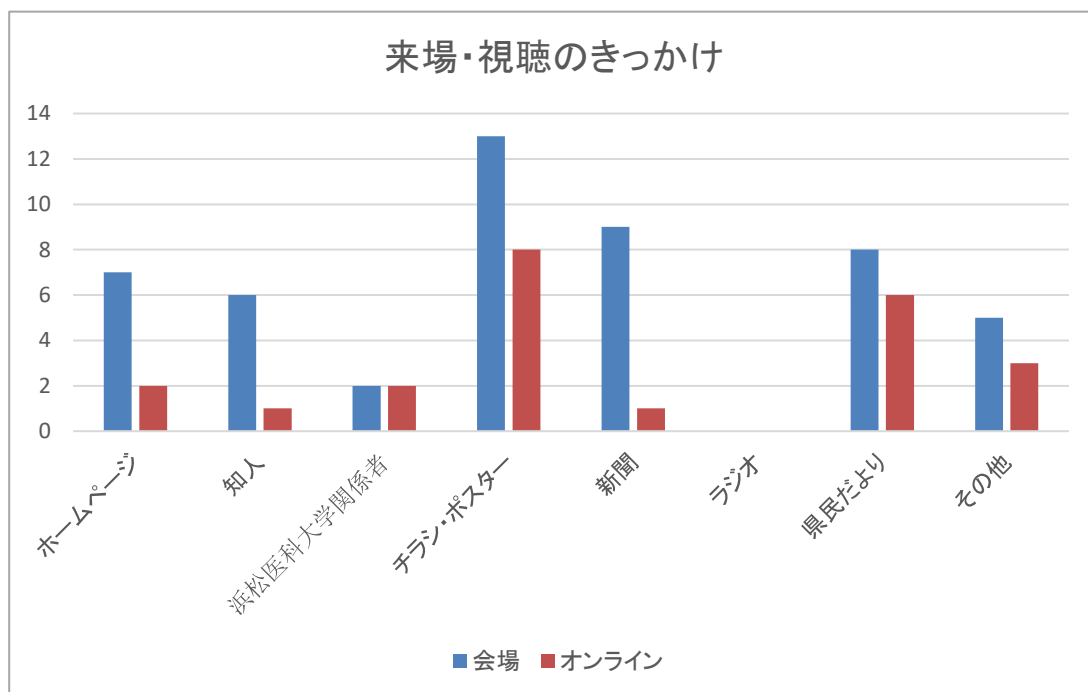


WEB参加者 満足度



【県民公開講座 報告】

参加のきっかけ



その他、ご意見

- ・初めてオンライン参加をしました。高齢のため自宅で視聴できて良かったです。
- ・スライドに示された言葉の表現が本当にわかりやすくすごいです！と思いました。
- ・身内で弁膜症で手術をしたので最新の治療が聞けて良かった。
- ・歯科相談、血圧測定、栄養相談等イベントの参加で情報もとても納得のいくもので参加できて良かったです。
- ・資料を頂きたい。

8

脳卒中・心臓病等総合支援センター

【県民公開講座 報告】

